

10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T対応 NAS RAID

N-RAID T_{series}

User's Manual

4000Tシリーズ

ご注意

- 1) 本製品と本書は、ヤノ電器株式会社の著作物です。当社の著作物の一部または全部を、当社に無断で複製し、複写し、転載し、改変することは、法律で禁止されています。
- 2) 本製品と本書は、改良のために内容を予告せずに、変更する場合がありますのでご了承ください。
- 3) 本製品は、法律で定める戦略物資等輸出規制製品に該当する場合がありますので、本製品の輸出あるいは国外への持ち出しにはご注意ください。
- 4) 本製品は、日本国内でご利用いただくように設計、製作されています。国外でのご使用に関しては、当社は責任を負いかねます。国外へのサポート、アフターサービスはいたしかねますので、あらかじめご了承ください。
- 5) 本製品を使用して、作成し、保存したデータが、ハードウェアの故障、誤動作あるいは他の理由によって破壊された場合には、当社は理由の如何にかかわらず保証いたしかねます。ご必要なデータはあらかじめバックアップされることをお奨めいたします。
- 6) 本書をバックアップし、ご自分で保有される場合に限り、一部のみ複写することができます。
- 7) 本製品のソースコードをお客様に開示し、ご使用を許諾することはありません。本ソフトウェア製品の解析、逆アセンブル、逆コンパイル、またはリバースエンジニアリングを禁止しております。
- 8) 本書に記載のない、あるいは本書に記載された内容と異なる操作によって生じた、どのような事故、損害に関しても、当社では責任を負いかねます。
- 9) 本製品は、医療など人命にかかわる機器、航空機、原子力、輸送など高い信頼性や安全性を必要とする設備や機器としての使用、あるいはこれらの機器や設備に組み込んで使用されることは考慮しておりません。このようなご利用によって生じた、どのような事故、損害に関しても、当社では責任を負いかねます。
- 10) 本製品および本書の内容について、ご不審な点や、お気づきの点がございましたら、当社カスタマサポートまでご一報くださいますようお願い申し上げます。

10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T 対応 NAS RAID 装置

N-RAID 4000T ユーザーズマニュアル

はじめに

このたびは、弊社製 NAS RAID 装置 **N-RAID 4000T** をお買い上げいただきありがとうございます。**N-RAID 4000T** は、これ 1 台でファイル共有を行うことができる NAS (Network Attached Storage) システムです。

このマニュアルを読んで N-RAID の設定を行ってください。なお、このマニュアルでは、一部を除き「**N-RAID 4000T**」のことを「本製品」または「サーバ」と記述しています。Mac OS および Mac OS X を搭載したコンピュータを総称して「Macintosh」、Windows を搭載したコンピュータを総称して「Windows」と記述しています。また、Web ブラウザから呼び出してお使いいただける本製品の管理ソフトのことを「**YFS Controller Pro II**」と記述しています。このマニュアルに記載されている画面上の表示等は、お使いのコンピュータのシステムの設定やバージョンによって、見え方が異なる場合があります。

● マニュアルの本文中の記号について

 注意	操作上、非常に大切なことを説明しています。注意事項を守らないと、重大なトラブルが発生し、データが失われることがあります。
 MEMO	操作にあたって気にとめていただきたいことを説明しています。操作の参考にしてください。

安全にお使いいただくために

ケガや故障、火災などを防ぐために、ここで説明している注意事項を、必ずお読みください。

 警告	この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などによる死亡や大ケガなど人身事故の原因となります。
 注意	この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりケガをしたり、他の危機に損害を与えたりすることがあります。

警告

-  本製品を使用する場合は、ご使用のパソコンや周辺機器メーカーが指示している警告、注意事項に従ってください。
-  本製品の分解、改造、修理をご自分で行わないでください。
火災や感電、故障の原因になります。また、故障時の保証の対象外となります。
-  本製品に付属の AC アダプタ以外のアダプタを使用しないでください。
火災や感電、故障の原因になります。また、故障時の保証の対象外となります。
-  本製品に付属の AC アダプタは、AC100V のコンセントに直接接続してご使用ください。また、接続する機器の消費電力の合計が、コンセントやコンセント付き延長コードの定格を超えないように注意してください。
規格外のコンセントに接続したり、コンセントの定格を超えると、故障や発熱による火災の原因になります。
-  ケーブル類を本製品やパソコン本体に接続する場合は、接続するコネクタに合わせた付属のケーブルを使用してください。
そのまま使用すると発煙や火災、感電などの故障の原因となります。



本製品やパソコン本体から煙が出たり異臭がした時は、直ちに電源を切り、AC コンセントから電源プラグを抜いてください。そのあと、ご購入店などにご連絡ください。

そのまま使用すると、火災や感電、故障の原因となります。



本製品やパソコン本体に、水などの液体や金属、たばこの煙などの異物を入れないでください。

そのまま使用すると、火災や感電、故障の原因となります。



本製品やパソコン本体に、水などの液体や異物が入った時は、直ちに電源を切り、AC コンセントから電源プラグを抜いてください。そのあとご購入店などにご連絡ください。

そのまま使用すると、火災や感電、故障の原因となります。



電源プラグは、コンセントに確実に接続してください。

接続が不完全な状態のまま使用すると、発熱などにより、火災の原因となります。



電源プラグのホコリ等は、定期的に取り除いてください。

プラグ部分にホコリ等がたまると、湿気等で絶縁不良になり、火災の原因となります。プラグ部分にホコリ等がたまった時は、電源プラグを抜き、乾いた布で拭き取ってください。



ケーブル類は、束ねた状態で使用しないでください。

束ねた状態で使用すると、発熱などにより、火災の原因となります。



ケーブル類や電源プラグは、傷付けたり破損しないように注意してください。ケーブル類を踏みつけたり、上に物を載せないでください。

傷んだ状態で使用すると、感電や火災の原因となります。



ぬれた手で電源プラグの抜き差しをしないでください。

感電の原因となります。



水を使う場所や湿気の多いところで、本製品やパソコン本体を使用しないでください。本製品に水などをこぼさないでください。

火災やショート、感電、故障の原因となります。

-  雷が鳴るなど、電圧の状態が不安定なときには使用しないでください。
ハードディスク内のデータが消失したり、故障の原因となります。
-  風通しの悪いところに設置する、布を掛ける、じゅうたんや布団の上に置くなど、通気口をふさいだ状態で使用しないでください。
通気口をふさぐと、内部に熱がこもり、火災の原因となります。
-  ビニール袋や小さな部品は、小さなお子様の手の届かないところに保管してください。
誤って口に入れたり、頭からかぶるなど思わぬ事故の恐れがあります。

注 意

-  本製品の接続、取り外しの際は、本マニュアルの指示に従ってください。
強引な着脱は、機器の故障や、火災、感電の恐れがあります。
-  本製品を磁石や磁気を持ったものに近づけないでください。
-  本製品を落としたり、衝撃を与えたりしないでください。
機器の故障やデータ損傷の原因となります。
-  本製品を移動する時は、ACアダプタから取り外してください。
機器の故障やデータ損傷の原因となります。
-  電源プラグを抜く時は、必ずプラグ部分を持って抜いてください。
電源コードを引っ張ると、コードが傷付いて、火災や感電の原因となります。
-  本製品の稼働中に電源コードや、接続ケーブルなどを抜かないでください。
機器の故障やデータ損傷の原因となります。
-  本製品の上に物を置かないでください。
本製品の上に乗らないでください。
機器の故障やデータ損傷の原因となります。



本製品やパソコン本体を次のようなところで使用、保管をしないでください。

- ・不安定な場所
- ・振動のある場所
- ・高温 / 多湿な場所
- ・強い磁気の発生する場所
- ・暖房器具の近く
- ・腐食性ガス雰囲気中
- ・ホコリの多い場所
- ・直射日光の当たる場所
- ・衝撃のある場所
- ・傾斜面
- ・たばこの煙
- ・静電気の影響を受けやすい場所



本製品内部を結露させたまま使わないでください。

本製品を寒い所から暖かい場所へ移動したり、部屋の温度が急に上昇すると、内部が結露する場合があります。そのまま使うと誤動作や故障の原因となります。再度使用する場合は、時間をおいて結露がなくなってからご使用ください。



本体についた汚れなどを落とす場合、柔らかい布で乾拭きしてください。洗剤で汚れを落とす場合は、水で薄めた中性洗剤液に柔らかい布を浸し、固く絞ってから汚れをふき取ってください。シンナー、ベンジン、アルコールなどの有機溶剤を含んでいるものは使用しないでください。



長期間本製品やパソコン本体を使用しない時は、電源プラグを抜いておいてください。



本製品の使用中にデータが消失もしくは破壊された場合、理由の如何に関わらず、データの保証は一切いたしかねます。必要なデータはバックアップするようにしてください。



本製品を廃棄もしくは譲渡する際は、以下の内容にご注意ください。ハードディスクのデータは削除やフォーマットを行っただけでは完全に消去されたことにはならず、特殊なソフトウェアなどを利用することにより、データを復元、再利用される可能性があります。情報漏洩等のトラブルを回避するためにデータ消去ソフトやサービスをご利用いただくことをお勧めいたします。



本製品を廃棄する場合は、お住まいの地方自治体で定められた方法で廃棄してください。

目次

Chapter 1 準備

1. 本製品の概要について	10
・ パッケージの内容を確認しましょう	10
・ 動作環境について	10
・ 本製品の特長	11
・ 本製品の機能について	13
2. お使いになる前に	14
・ ご使用になる時の注意事項	14
3. 各部の名称とはたらき	17

Chapter 2 使ってみましょう

1. 作業を始める前に	22
・ 本製品の使い方	22
・ ドライブホルダーの装着	22
Step 1 サーバを起動する	23
・ 本製品に電源を入れる	23
・ IP アドレスを確認する	24
・ IP アドレスを設定する	24
・ ネットマスクを設定する	25
Step 2 ネットワークを設定する	27
・ Mac OS X 10.3 ~でお使いの場合	27
・ Windows 2000 / XP でお使いの場合	29
・ Windows Vista でお使いの場合	31
Step 3 設定ウィザードを実行する	33
・ ボリュームを作成し直す	37
Step 4 ユーザ設定とストレージ設定を行う	41
Step 5 サーバに接続する	45
・ Mac OS 8.5.1 ~ 9.2.2 の場合	45
・ Mac OS X 10.2 ~ の場合	46
・ Windows の場合	48
2. サーバを終了する	50

Chapter 3 YFS Controller Pro IIで設定する

1..YFS Controller Pro II で設定する	52
・ YFS Controller Pro II を起動する	52
2..システム設定	53
・ サーバー名	53
・ 使用言語.....	54
・ 日付&時刻	55
・ コンフィグ（保存 / 復元）	56
・ コンフィグ（初期化）	58
・ UPS.....	59
・ 障害通知.....	60
・ ファームウェア.....	63
・ パスワード	64
3..ネットワーク設定	65
・ ネットワーク設定	65
・ Macintosh.....	67
・ Windows.....	68
・ UNIX.....	70
4..ストレージ設定	71
・ ボリューム	71
・ フォルダ.....	73
・ バックアップ設定	76
・ 同期設定.....	87
5..ユーザー設定	95
・ グループ	95
・ ユーザ	98
・ アクセス権（簡易）.....	101
・ アクセス権（詳細）.....	105
・ クォータ	111

6..システム情報	113
・システム情報.....	113
・CPU.....	113
・メモリ.....	113
・ネットワーク.....	114
・ボリューム.....	114
・アクティブアクセス.....	116
・ログ.....	116
7..ログアウト	117
8..シャットダウン	118

Chapter 4 日常の運用と障害の発生

1..日常の運用について	120
・日常および障害時のご注意.....	120
・障害の発生に備えて.....	120
2..障害が発生した時は	121
・障害が発生した時の状態.....	121
・アラートの解除方法.....	122
3..ドライブホルダーの交換と復旧作業	123
・スペアディスクの再設定.....	125

Chapter 5 付 録

1. RAID システムについて知ろう	128
2. こんな時には	131
3. サポートとサービスのご案内	134
・カスタマサポートと弊社 Web サイトのご案内.....	134

Chapter

1

準備

Chapter 1では、本製品を使用する前に、知っておいていただきたいことを説明しています。

パッケージの内容を確認しましょう

本製品のパッケージには、下記のものが入っています。お使いになる前に、必ず内容をご確認ください。不足品や破損品などがありましたら、すぐにお買い上げの販売店または弊社カスタマサポートへご連絡ください。● P134「サポートとサービスのご案内」

- ・ N-RAID 本体.....1 台
- ・ ドライブホルダー4 台
- ・ ドライブホルダー（スベアドライブ付きモデルの場合）.....5 台
- ・ 電源ケーブル.....1 本
- ・ ネットワークケーブル.....1 本
- ・ キー.....2 本
- ・ ユーザーズマニュアル（このマニュアルです）.....1 冊
- ・ 液晶表示パネル / ステータス ログ 主な表示一覧表.....各 1 部
- ・ N-RAID・お使いになる前に必ずお読みください.....各 1 部
- ・ N-RAID 4000T シリーズ：製品仕様について.....各 1 部
- ・ 保証書、ユーザー登録カード.....各 1 部
- ・ N-RAID オンサイト修理サービス加入申込書（オンサイトモデルのみ）.....各 1 部

動作環境について

■ クライアント環境（ユーザ）

ファイル共有等のサービスを利用するクライアントです。

Macintosh	Mac OS 8.5.1 ～ 9.2.2 / Mac OS X 10.2 以降
Windows	Windows 98 SE / Me / NT 4.0 (SP3 以降) / 2000 / XP / Vista

クライアント環境のコンピュータは、ネットワークポートを装備している必要があります。

■ クライアント環境（管理者）

Web ブラウザによりサービスを設定します。

Macintosh	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対応 OS : Mac OS X 10.3 以降 ・ Web ブラウザ : Safari 1.2 以降
Windows	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対応 OS : Windows 2000 / XP / Vista ・ Web ブラウザ : Internet Explorer 6.0 以降

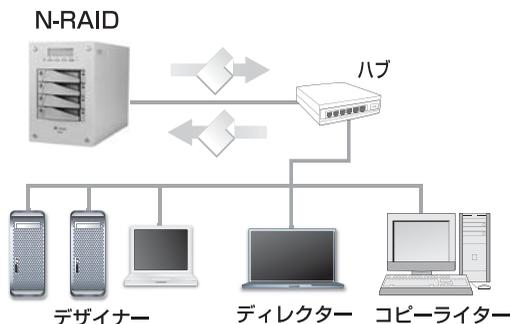
Java Script と Cookie を使用しています。Java Script を利用できる設定にてご使用ください。

本製品の特長

●部門・部署、SOHO などのネットワーク環境の共有ストレージとして

各種データの保存や共有、一元管理やバックアップなどの用途にお使いいただけます。また、Macintosh と Windows の両方からアクセス可能で、さらに NFS (Network File System) を介して UNIX などの混在している環境でもスムーズにデータ交換を行えます。

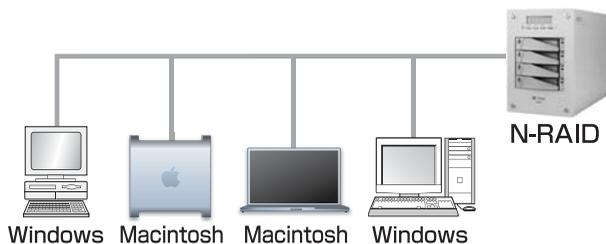
本製品には、4 台のハードドライブが装備されており、シングルドライブ構成や RAID 構成など、用途に応じた形態で使用することができます。



● Macintosh と Windows が混在した環境でのファイル共有が可能

Macintosh と Windows が混在した環境でも、機種や OS の違いによるトラブルやファイル名の文字化けなどの問題なく、各種データの保存や共有、一元管理やバックアップ等に使用できます。

※ OS 固有の制限がありますのでご注意ください。詳しくは P15 をご覧ください。



●共有フォルダのバックアップ機能

N-RAID 1 台での共有フォルダのバックアップや、N-RAID 2 台での共有フォルダのバックアップをすることができます（バックアップ機能）。

2 台の N-RAID でバックアップすることにより、RAID 機能に加え、さらにデータの安全性を確保できます。バックアップを設定することで、万が一、片方の N-RAID に接続できなくなっても、すぐにもう片方の N-RAID を使用することで障害発生時の復旧にかかる時間を短縮することができます。

● ACL 機能によるアクセス権限の設定が可能

ACL（Access Control List）機能により共有フォルダだけでなく、共有フォルダ内部のファイルやフォルダに対してアクセス権を設定することができます。

●最新のネットワークプロトコルを採用

Macintosh のファイル共有プロトコル AFP（Apple Filing Protocol）3.1 に対応しています。Mac OS X 10.2.x など AFP3.x に対応したクライアントから 2GB を超えるファイルを取り扱うことができます。

Windows のファイル共有は CIFS/SMB に対応しています。Windows NT / 2000 サーバのドメインレベルセキュリティにも対応します。

●無停止で障害ドライブを復旧できるホットスワップ対応&オートリビルド機能搭載

障害発生時でも本体の電源を停止することなく故障したドライブの交換ができるホットスワップに対応。また、ドライブの交換後、自動的にデータの再構築を行うオートリビルド機能を搭載しています。複雑な設定を行うことなくドライブを交換することができます。

●障害発生時の自動復旧機能ホットスタンバイ対応

予備のドライブを待機（スタンバイ）させ、障害発生時には自動で待機中のドライブヘデータを再構築するホットスタンバイに対応。RAID 5 と組み合わせれば安全性がいっそう高まるため、ノンストップ運用に最適です。

●クライアントマシンの Web ブラウザから簡単にサーバー管理が可能

サーバー管理はクライアントマシン（Macintosh / Windows のどちらも可）の Web ブラウザから簡単に行えます。設定は簡単で、必要に応じて細かな設定も可能です。

本製品の機能について

本製品には以下の機能が搭載されています。

●ファイル共有機能

AFP (Macintosh の共有機能) と NetBIOS (Windows の共有機能)、NFS (Network File System) に対応。ネットワークを介して共有フォルダにファイルを保管し、Macintosh (Mac OS 8.5.1 ~ 9.2.2 / X 10.2 ~) や Windows (Windows 98 / Me / NT4.0 / 2000 / XP / Vista)、UNIX など異機種が混在した環境でもファイルを共有することができます。

●データバックアップ機能

バックアップ設定を行うことで、N-RAID の共有フォルダのバックアップをとることができます。N-RAID 1 台での共有フォルダのバックアップや、2 台の N-RAID での共有フォルダのバックアップをすることにより、さらにデータの安全性が確保できます。

●アクセス管理機能

共有フォルダごとにアクセス権を設定することができます。それに加え、共有フォルダ内部のファイル/フォルダに対してグループやユーザごとのアクセス権限 (書き込み/読み出し/接続不可) が設定できます。

●簡単設定機能

Web ブラウザを使って簡単に設定できる管理ソフト「YFS Controller Pro II」を搭載。サーバに必要な全ての設定を Web ブラウザより行うことができます。

DHCP クライアントにも対応していますので、ネットワーク内に DHCP サーバがあれば自動的にネットワーク設定を行います。

※ DHCP サーバがない場合には IP アドレスが設定されませんので、N-RAID 本体の操作パネルから IP アドレスの設定を行う必要があります。(P24 参照)

●UPS による停電監視機能

UPS (無停電電源装置) と本製品を USB ケーブルで接続すれば、停電検出を行うことが可能です。停電時には自動的にシャットダウンしますので、落雷などで突然の停電が起こってもデータやハードウェアの損傷を防ぐことができます。

本製品は、APC 社製 Back-UPS ES 500 に対応しています。

2 お使いになる前に

ご使用になる時の注意事項

本製品をご使用になる場合は、下記の点に注意してください。

- 本製品を導入するための作業を始める前に、必ず P2「安全にお使いいただくために」をお読みください。
- 本製品のアクセス時（アクセスランプが点滅している時）やサーバに接続している時に、「電源を切る」「電源ケーブルを抜く」「ネットワークケーブルを外す」といった行為をしないでください。データが失われたり、本製品が故障する恐れがあります。
- 本製品の電源が入った正常な状態で「ドライブホルダーを取り出す」などの操作をしないでください。正常な状態でもこれらの操作をすると、オートリビルド機能により再構築が開始されたり、最悪の場合はすべてのデータが失われることがあります。
- ドライブホルダーは当社指定のもの以外は絶対に使用しないでください。また、ドライブホルダー内のドライブをお客様ご自身で交換しないでください。本製品が正常に動作しなくなります。なお、お客様ご自身でドライブを交換された場合は保証の対象外になります。
- 正常時および障害時のいずれの場合でも、電源を切った状態でドライブホルダーを交換しないでください。再構築が開始され、ドライブの不一致を検出できない場合はデータの内容が保証されないばかりか、正常なドライブホルダーのデータが失われる恐れがあります。

■ 設置場所について

- 本製品を床の上や机の下など、ホコリの影響を受けやすい場所への設置は避けてください。
- 本製品は、机の上など風通しの良い場所に設置してください。
- 直射日光の当たる場所や暖房器具の近くなど高温になる場所は、本製品の温度上昇につながりますので設置は避けてください。
- 本製品の正面向かって右側および後側は、それぞれ通気口・System ファンです。本製品を設置する際は、右側および後側 20センチ以上の空間をあけてください。また、正面の各ドライブホルダーの周囲からも空気を取り入れていますので、紙類等によってふさがないようにしてください。
- タバコの煙の粒子が本製品の内部に付着すると、故障の原因となります。本製品の近くでの喫煙はご遠慮ください。同様に、チリやホコリの多い場所では使用しないでください。

- コピー機やプリンタなどの消費電力の大きな機器とは同系列のコンセントに接続しないでください。

■ メンテナンスについて

- 本製品のメンテナンスを行う時は、本製品の電源を切った状態で行ってください。
- 本製品の右側にある通気口は、環境によってはホコリが溜まることがあります。定期的にホコリの除去を行なってください。
- 空気の通気は、正面の各ドライブホルダーの周囲からも行っています。ドライブホルダーを引き抜いて、定期的にホコリの除去をしてください。
- 指が届きにくい部位にホコリが溜まっている場合は掃除機などで除去してください。

■ ファイルサイズについて

- 単一で2GBを超えるファイルは、AFP3.1以降に準拠したクライアントのみが取り扱うことができます。

■ ファイル名およびフォルダ名として使用する文字の制限について

本製品を使用する場合、クライアントOSによってファイル名やフォルダ名に制限があります。ここでは、OSごとの制限について説明します。

◆ Windows の場合

ファイル名やフォルダ名に「`*/:;*?"<>|`」を含む文字列を設定することはできません。

◆ Macintosh の場合

本製品では、タイプフェイスが定義されていない文字コードを含むファイル名やフォルダ名は、使用することができません。Mac OS 9以前では、このような文字を含むファイルやフォルダを作成することができますが、そのファイルやフォルダを本製品の共有フォルダにコピーするとエラーが発生しますのでご注意ください。

Windowsで設定できない文字を含んだファイル名やフォルダ名をMacintosh側から本製品に書き込むと、Windowsではファイルアクセスの問題を回避するために文字列を変換して表示します。しかしこの状態は、同じファイルの名称がそれぞれのOS間で異なるという状況になりますので注意が必要です。

■ RAID 構成について

本製品で構成できる RAID レベルは以下のとおりです。

・ RAID レベル ... RAID 0 / 1 / 3 / 5 / シングルディスク (RAID なし)

本製品は、出荷時に4台のドライブで「RAID 5」を構成し、1つのボリュームを作成しています。設定を変更したい場合は、P37「ボリュームを作成し直す」を参照してください。

■ バックアップ設定を行う上でのユーザー ID 及びグループ ID について

バックアップ設定でバックアップをおこなった時のファイル／フォルダのオーナー（所有者）はバックアップ元のユーザー ID 及びグループ ID と同じ ID になります。バックアップ先に同じユーザー ID 及びグループ ID が存在した場合、バックアップ元のユーザー名・グループ名はバックアップ先のユーザー名・グループ名に変更されます。ユーザー名・グループ名を変更したくない場合は、バックアップ先のユーザー・グループをバックアップ元とは別のユーザー ID ・グループ ID で登録してください。

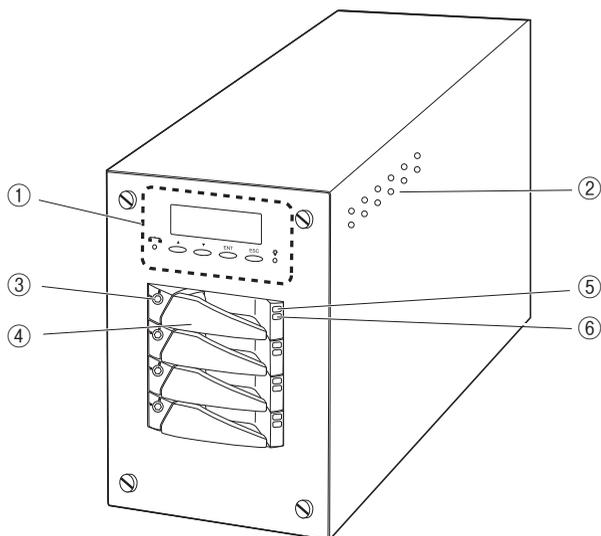
■ セキュリティについて

本製品では、HTTP (80)、AFP over TCP (518,548)、NBT (137 ~ 139,445) の各サーバーサービスを提供しています。また、ユーザ認証は ID とパスワードによって行います。内部や外部からの不正アクセスで被害を受けないよう、ファイアウォールやブロードバンドルータを別途ご用意のうえ、安全を確保し、パスワードも厳重に管理するなどセキュリティには十分注意を払ってください。※ () 内はポート番号

■ スリープ機能について

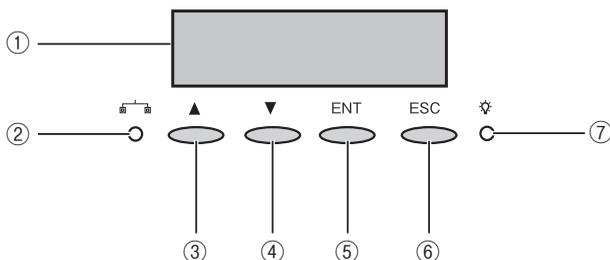
クライアントに Macintosh をお使いの場合、サーバに接続している状態でスリープすると、一定時間で強制的に接続を解除します。Macintosh のスリープ機能を解除するか、スリープする前に共有を解除（アンマウント）するようにしてください。

■ 前面



①	操作パネル部分	本製品の設定を行います。液晶表示パネルとボタンで構成されています。詳しくは、次ページを参照してください。
②	通気口	空気が通ります。ふさがないようにしてください。
③	カギ穴	ドライブホルダーをロックするためのカギ穴です。
④	ドライブホルダー	内部にハードディスクが取り付けられています。上部には通気口がありますので、ふさがないようにしてください。
⑤	ハードディスク 電源ランプ (緑 / 赤)	ハードディスクの動作状況を示します。 ・緑色：ハードディスクに通電中 ・赤色：ハードディスクの故障
⑥	ハードディスク ステータスランプ (青)	ハードディスクの動作状況を示します。 ・青色：ハードディスクにアクセス中

■ 操作パネル



①	液晶表示パネル	サーバとして起動が完了すると、上段に「製品名」が、下段には「設定されている 5 つのパラメータ」が表示されます。 パラメータは、「サーバ名」→「CPU 温度」→「System ファンの回転数」→「現在の日時」→「IP アドレス」の 5 つで、2 秒ごとに表示が切り替わります。
②	ネットワークステータスランプ	本製品のネットワークポートにネットワークケーブルが接続されている時に橙色に点灯します。
③	▲(上向き三角)ボタン	操作パネルで本製品の設定を行う場合は、▲ボタンおよび▼ボタンで設定項目を選択します。
④	▼(下向き三角)ボタン	
⑤	ENTボタン	選択した値を確定する時にこのボタンを押します。
⑥	ESCボタン	前のメニューに戻る時にこのボタンを押します。
⑦	電源ランプ	本製品に電源が投入されると緑色に点灯します。

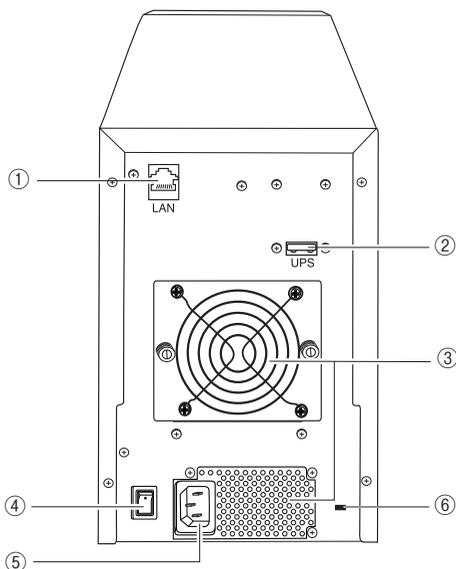


注意

操作パネルで行う設定はすべて、クライアントマシンの Web ブラウザから「YFS Controller Pro II」によって設定することができます。クライアントマシンから接続する際に、ネットワーク関連の設定を操作パネルで行う必要があります。

操作パネルでのネットワーク関連の設定手順は、P24 を参照してください。

■ 背面



①	ネットワークポート	ネットワークケーブルを接続します。ギガビットイーサネットに対応しています。
②	UPSポート	UPS (無停電電源装置) を接続するためのポートです。対応する UPS については、P59 を参照してください。
③	Systemファン	冷却用のファンが取り付けられています。この部分をふさがないように注意してください。
④	電源スイッチ	このスイッチは、シーソー式の押し戻しタイプです。本製品の電源を ON/OFF する時は、スイッチを押してすぐに離してください。
⑤	電源コネクタ	本製品に付属の電源ケーブルを接続します。
⑥	キーロック	盗難防止用のケーブルを取り付けることで本製品を盗難から防止することができます。ケンジントンセキュリティスロットの規格に準じた盗難防止キーをご使用ください。



サーバの異常時などで、電源スイッチを押しても電源が切れない場合は、電源スイッチを押し込んだまま数秒間待つと、電源は強制的に切れます。強制的に電源を切った場合、本製品は異常終了したと認識し、次の起動時に復旧動作 (RAID 構成のチェック) を行うことがありますのでご注意ください。復旧動作 (RAID 構成のチェック) にはデータ容量などにより、2 時間～8 時間程度要します。

Chapter

2

使ってみましょう

Chapter 2では本製品の基本的な使用方法を Step で説明しています。お使いの OS やサーバの設定によって作業順序が異なります。お使いの設定の内容により、作業を進めてください。

本製品の使い方

手順は次ページからの Step の順番です。Step の内容は以下のとおりです。

- Step 1 サーバを起動する.....P23
- Step 2 ネットワークを設定する.....P27
- Step 3 設定ウィザードを実行する.....P33
- Step 4 ユーザー設定とストレージ設定を行う.....P41
- Step 5 サーバに接続する.....P45

本製品は、ネットワーク環境（DHCP サーバの有無）により設定の手順が異なります。お使いの環境に合わせて作業を進めてください。

DHCPサーバがある場合・・・Step1, Step3～5

DHCPサーバがない場合・・・Step1～5

ドライブホルダーの装着

N-RAID 本体とドライブホルダーを梱包箱より取り出したら、まず外見に破損などがないか確認してください。

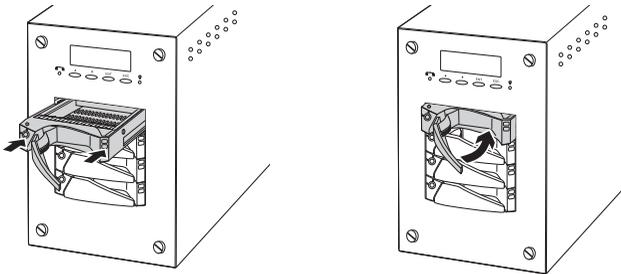
本製品の電源を入れる前に、以下の手順でドライブホルダーの装着を行ってください。



この操作は、本製品に初めて電源を投入する前（ケーブル類を接続する前）に行ってください。

1

ドライブホルダーをスロットに差し込みます。均等に力を入れて、奥に突き当たるまで押し込んだあと、取手を元の位置に戻します。残りのドライブホルダーも同様に装着します。



2

付属のキーを六角形のカギ穴の形に合わせて差し込みます。▲のマークを☐に合わせ、ドライブホルダーをロックします。残りのドライブホルダーも同様にドライブホルダーのロックをします。

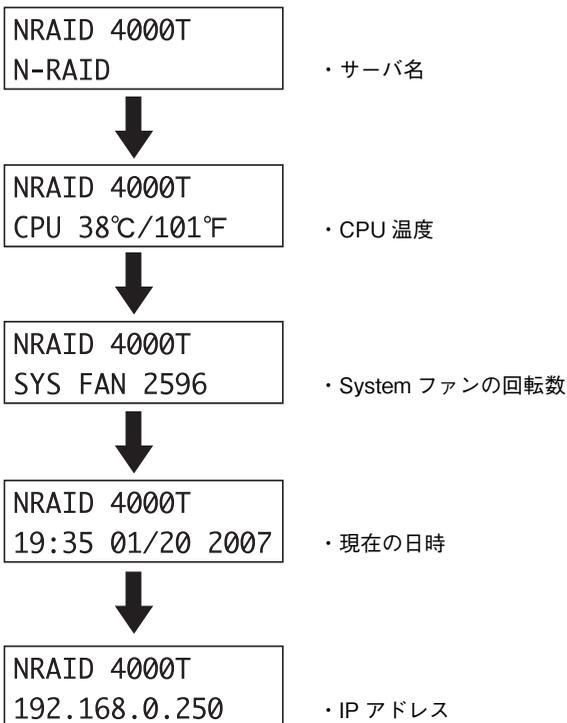
本製品に電源を入れる

本製品とハブを接続し、サーバを起動します。

- 1 本製品のネットワークポートとハブの間を、付属のネットワークケーブルで接続します。
本製品に電源ケーブルを接続し、電源ケーブルのプラグを AC コンセントにしっかりと差し込みます。

- 2 本製品の電源スイッチを ON にします。

- 3 起動が完了すると、本製品の液晶表示パネルに以下のパラメータが表示されます。
液晶表示パネルの上段には「製品名」が、下部には「サーバ名」→「CPU 温度」→「System ファンの回転数」→「現在の日時」→「IP アドレス」を約 2 秒間隔でくり返し表示します。



図の表示は例です。

IP アドレスを確認する

本製品はネットワーク内の DHCP サーバを検索し、IP アドレスを割り当て、液晶表示パネルに IP アドレスを表示します。

DHCP サーバが存在しない場合や、DHCP サーバから IP アドレスの取得に失敗した場合などには、IP アドレスは設定されず、液晶表示パネルにも表示されません。この場合には、次項の「IP アドレスを設定する」の手順に従って、IP アドレスを設定する必要があります。

- 設定された IP アドレスを、本製品の液晶表示パネルで確認します。

NRAID 4000T
192.168.0.250

図の表示は例です。

DHCPサーバがある場合 …P33 Step 3 に進んでください。

DHCPサーバがない場合 …本製品の IP アドレスとネットマスクを設定します。以下の手順で行ってください。

IP アドレスを設定する

操作パネルで IP アドレスを設定します。

1 Enter Passwd
0

操作パネルの「ENT」ボタンを押します。パスワードを聞いてきますので、管理者パスワードを入力します。最後まで入力できたら「ESC」ボタンを押します。

- ・パスワードの初期設定は「00000000」（数字の0が8個）です。
文字は「▲」ボタン「▼」ボタンで変更します。
1文字の入力が終わったら「ENT」ボタンで次の文字に移動します。

2 Main Menu
1Network

「Main Menu 1Network」と表示されていることを確認し、「ENT」ボタンを押します。

3 1Network
11Channel 0

「1Network 11Channel 0」と表示されていることを確認し、「ENT」ボタンを押します。

4

11Channel 0
111CH0 Status

「11Channel 0 111CH0 Status」と表示されていることを確認し、「ENT」ボタンを押します。

5

111CH0 Status
ON CONNECTED

「111CH0 Status ON CONNECTED」と表示されていることを確認し、「▼」ボタンを1回押します。



操作パネルに「ON DISCONNECTED」もしくは「OFF DISCONNECTED」と表示された場合は、ケーブルが正しく接続されているかどうかを確認してください。

6

112CH0 IP ADDR
Not Available

下段に、設定されているIPアドレスまたはNot Availableが表示されていることを確認し、「ENT」ボタンを押します。

7

Set CH0 IP
192.168.0.250

IPアドレスの入力を行います。
文字は「▲」「▼」ボタンによって変更します。
1文字目の入力ができたら、「ENT」ボタンで次の文字に移動します。最後の文字を入力し、「ENT」ボタンを押すと設定が完了します。

設定が完了すると、本製品は自動的に再起動します。

ネットマスクを設定する

操作パネルでネットマスクを設定します。

1

Enter Passwd
0

操作パネルの「ENT」ボタンを押します。
パスワードを聞いてきますので、管理者パスワードを入力します。最後まで入力できたら「ESC」ボタンを押します。

- ・パスワードの初期設定は「00000000」（数字の0が8個）です。
文字は「▲」「▼」ボタンで変更します。
1文字の入力が終わったら「ENT」ボタンで次の文字に移動します。

2

Main Menu
1Network

「Main Menu 1Network」と表示されていることを確認し、「ENT」ボタンを押します。

3

```
1Network
11Channel 0
```

「1Network 11Channel 0」と表示されていることを確認し、「ENT」ボタンを押します。

4

```
11Channel 0
111CH0 Status
```

「11Channel 0 111CH0 Status」と表示されていることを確認し、「ENT」ボタンを押します。

5

```
111CH0 Status
ON CONNECTED
```

「111CH0 Status ON CONNECTED」と表示されていることを確認し、「▼」ボタンを2回押します。



操作パネルに「ON DISCONNECTED」もしくは「OFF DISCONNECTED」と表示された場合は、ケーブルが正しく接続されているかどうかを確認してください。

6

```
113CH0 Netmask
255.255.255.000
```

下段に表示されるネットマスクの設定値が、接続するネットワークに適合しているかを確認します。適合していれば設定の必要がないので、「ESC」ボタンを数回押して設定を終了します。変更する場合は、「ENT」ボタンを押します。

7

```
Set CH0 Netmask
255.255.255.000
```

ネットマスクの入力を行います。文字は「▲」「▼」ボタンによって変更します。1文字目の入力ができたら「ENT」ボタンで次の文字に移動します。最後の文字を入力し、「ENT」ボタンを押します。

■ 設定が完了すると、本製品は自動的に再起動します。

2 ネットワークを設定する

クライアント（管理者）のネットワーク設定を変更します。
お使いになる OS に合わせて設定を行ってください。

DHCPサーバがある場合 …P33 Step 3 に進んでください。

DHCPサーバがない場合 …サーバの IP アドレスは設定されません。本製品の IP アドレスを液晶表示パネルで確認してください。IP アドレスが表示されない場合は、P23 「Step 1 サーバを起動する」を参照し、サーバのネットワーク設定を完了させてください。

DHCPサーバがない場合

ここでの説明は、ネットワーク設定が以下のようにサーバに行われていることを前提とします。

- ・サーバのネットワーク設定
IP アドレス：192.168.0.250
サブネットマスク：255.255.255.0
- ・クライアントのネットワーク設定
IP アドレス：192.168.0.251
サブネットマスク：255.255.255.0

Mac OS X 10.3 ～でお使いの場合

Mac OS X 10.3 ～でお使いの場合の TCP/IP の設定を行います。以下の手順に従ってください。

- 1 【アップルメニュー】 → 【システム環境設定】 → 【ネットワーク】を開きます。
「表示：」を「内蔵 Ethernet」を選択し、「TCP/IP」タブをクリックします。

- 2** IP アドレスの設定を行います。「表示:」は【内蔵 Ethernet】、「IPv4 の設定:」は「手入力」を選択し、IP アドレスとサブネットマスクを入力します。



図の数値は入力例です。
この情報はネットワーク
管理者より入手してくだ
さい。

- 3** 「AppleTalk」タブをクリックし、「AppleTalk 使用」にチェックを入れます。



- 4** 設定が終了したら、【今すぐ適用】をクリックします。

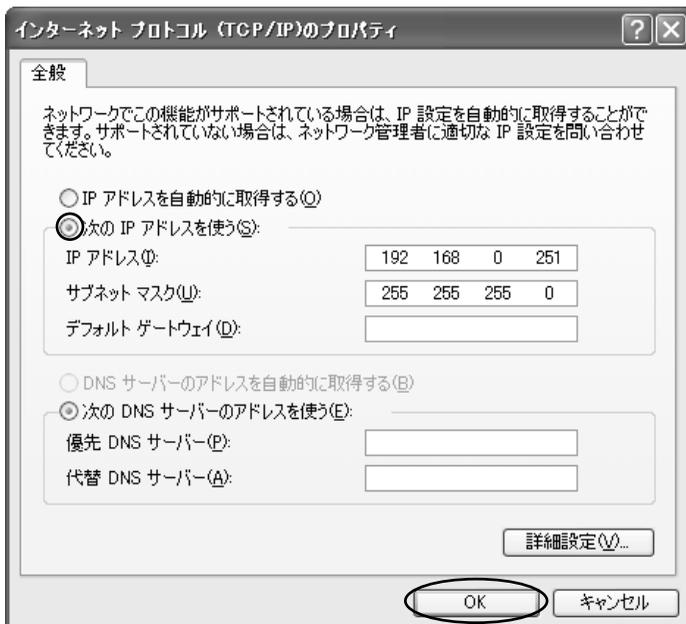
Windows 2000 / XP でお使いの場合

Windows 2000 / XP でお使いの場合の TCP/IP の設定を行います。以下の手順に従ってください。

- 1** システムを起動し、Administrator 権限でログインします。
【スタート】 → 【設定】 → 【コントロールパネル】 → 【ネットワーク】を開きます。
- 2** 【ローカルエリア接続】アイコンを右クリックし、サブメニューから【プロパティ】を選択します。
- 3** 【ローカルエリア接続のプロパティ】が表示されます。
「Microsoft ネットワーク用クライアント」「Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有」「インターネットプロトコル (TCP/IP)」にチェックが入っていることを確認してください。
【インターネットプロトコル (TCP/IP)】を選択し、【プロパティ】をクリックします。



- 4** 【インターネットプロトコル (TCP/IP) のプロパティ】が表示されます。「次の IP アドレスを使う」を選択し、IP アドレスとサブネットマスクをそれぞれ入力します。設定できれば【OK】をクリックします。



図の数値は入力例です。

この情報はネットワーク管理者より入手してください。

Windows Vista でお使いの場合

Windows Vista でお使いの場合の TCP/IP の設定を行います。以下の手順に従ってください。

1 システムを起動し、Administrator 権限でログインします。

【スタート】 → 【コントロールパネル】 → 【ネットワークとインターネット】 → 【ネットワークと共有センター】 を開きます。

【ネットワーク】 欄の「接続」にある「状態の表示」をクリックします。

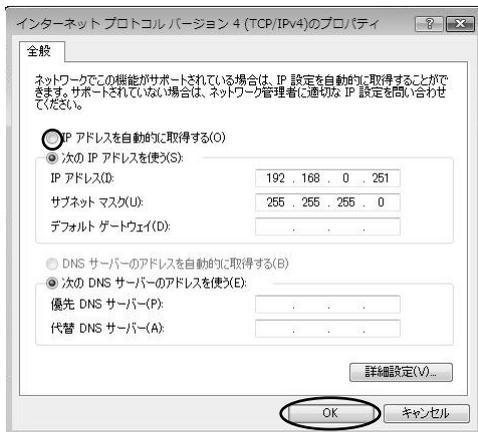


- 2** 【ローカルエリア接続の状態】の画面から【プロパティ】をクリックします。
 【ローカルエリア接続のプロパティ】が表示されます。
 【インターネットプロトコルバージョン4 (TCP/IPv4)】を選択し、【プロパティ】をクリックします。



- ・「Microsoft ネットワーク用クライアント」「Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有」「インターネットプロトコルバージョン4 (TCP/IPv4)」にチェックが入っていることを確認してください。

- 3** 【インターネットプロトコルバージョン4 (TCP/IPv4) のプロパティ】が表示されます。「次のIPアドレスを使う」を選択し、IPアドレスとサブネットマスクをそれぞれ入力します。設定できれば【OK】をクリックします。



図の数値は入力例です。
 この情報はネットワーク管理者より入手してください。

3 設定ウィザードを実行する

クライアントマシンの Web ブラウザより、YFS Controller Pro II を呼び出し、本製品を設定します。

使用する Web ブラウザは Java スクリプトを有効にしている必要があります。

■ 接続する前に、本製品の IP アドレスを液晶表示パネルで確認します。

1 Web ブラウザを起動します。URL を入力し、< Enter >キーを押します。

DHCPサーバがある場合

URL の入力方法 http:// Step 1 で確認した IP アドレス /

DHCPサーバがない場合

URL の入力方法 http://192.168.0.250 /

※この数値は入力例です。

2 ユーザー名（ユーザー ID）とパスワードを確認するダイアログが表示されます。ユーザー名を「nasroot」、パスワードに「00000000」（数字の 0 が 8 個）と入力し、【ログイン】をクリックします。

※パスワードの初期設定は「00000000」（数字の 0 が 8 個）です。

サーバにログインします。NRAID009481

ユーザー名	<input type="text" value="nasroot"/>
パスワード	<input type="password" value="00000000"/>

3 YFS Controller Pro II のシステム情報の画面が表示されます。【設定ウィザード】を選択します。

YFS Controller Pro II
設定ウィザード

yano
ヤノ電器株式会社

システム設定

ネットワーク設定

ストレージ設定

ユーザー設定

システム情報

設定ウィザード

ログイン

シャットダウン

↑ nasroot

設定ウィザード

サーバー名

- 4** 本製品に設定するサーバー名を 14 文字以内で入力します。
入力したら【更新して次へ】をクリックします。

設定ウィザード

サーバー名



サーバー名には半角英数字と「-」「_」を使用してください。



同一ネットワーク上に重複したサーバー名を設定することはできません。他のサーバとサーバ名が重複しないように注意してください。

- 5** 以下のような画面が表示されます。【次へ】をクリックします。

設定ウィザード

サーバー名を [NRAID] に変更しました。

- 6** 日付と時刻、エリア、都市を設定します。日付・時刻はサーバの動作に大きく影響を与えますので、できるだけ正確に設定します。
NTPサーバを指定することも可能です。詳細については P55 を参照してください。
【更新して次へ】をクリックすると、入力した日付・時刻を更新します。

設定ウィザード

日付 / /

時間 : :

エリア

都市

NTPサーバ はい 手入力

- 7** 以下のような画面が表示されます。【次へ】をクリックします。

設定ウィザード

日付&時刻を変更しました。

- 8** 本製品をサーバとして使用するために必要なネットワークの設定を行います。IPアドレスを設定する場合は、【IP設定】を「手入力」にし、【IPアドレス】【サブネットマスク】【ルータアドレス】【DNSサーバアドレス】を入力します。入力できたら【更新して次へ】をクリックします。

設定ウィザード	
ネットワーク	Ether0 ▼
IP設定	DHCP/BOOTP ▼
IPアドレス	<input type="text"/>
サブネットマスク	<input type="text"/>
ルータアドレス	<input type="text"/>
速度	Auto ▼
DNSサーバアドレス	<input type="text"/>

- 9** 再起動を促すメッセージが表示されます。ここでは【次へ】を選択し設定を続けます。

設定ウィザード	
ネットワーク設定を完了しました。変更は再起動後に有効になります。	
<input type="button" value="再起動"/>	<input type="button" value="次へ"/>

- 10** 本製品のボリュームの設定内容が表示されます。【次へ】をクリックします。

設定ウィザード					
No.	タイプ	容量(MB)	使用量(MB)	ディスク	ステータス
Volume1	RAID 5	1420740	19	1,2,3,4	使用中です。



設定ウィザードでは、ボリュームの削除や変更はできません。ボリュームのディスク構成などを変更する場合は、P37を参照してボリュームを作成し直してください。

- 11** Windows ファイル共有を使用するかどうかの設定を行います。通常、【オン/オフ】は「設定する」を、【セキュリティレベル】は「ユーザ」を選択し、ワークグループを入力します。

Windows NT / 2000 ドメインに参加する必要がある場合は、【セキュリティレベル】で「ドメイン」を選択し、必要な項目を入力します。

入力が完了したら【更新して次へ】をクリックします。

設定ウィザード	
オン/オフ	<input checked="" type="radio"/> 設定する <input type="radio"/> 設定しない
サーバー名	NRAID
セキュリティレベル	ユーザ
ワークグループ	workgroup
PDC名	
PDC管理者名	
PDC管理者パスワード	
ユーザーID(最小-最大)	40000 --- 60000
グループID(最小-最大)	40000 --- 60000
サーバー概要	NRAID
WINSサーバーIPアドレス	

更新して次へ

次へ

- 12** 以下のような画面が表示されます。【次へ】をクリックします。

設定ウィザード
Windowsネットワークの設定を変更しました。
次へ

- 13** 以下のような画面が表示されます。

設定ウィザード
クイック設定を終了しました。

これで設定ウィザードは完了です。

変更した設定を反映させるために【シャットダウン】→【再起動】を選択し、再起動を行ってください。

続けて、Step 4 でストレージ設定を行います。



【シャットダウン】→【再起動】を選択しても YFS Controller Pro II の表示は「起動中です。しばらくお待ちください。」のままになります。再起動を選択した際は、N-RAID 本体の液晶パネルで起動の完了を確認してください。(P23 参照)

ボリュームを作成し直す

作成済みのボリュームのディスク構成などを変更する場合は、以下の手順でボリュームを作成し直してください。



本製品は搭載されているドライブを「ボリューム」として取り扱います。お使いの用途に合わせ、搭載されている4台のドライブで「シングルディスク」もしくは「RAID」を構成し、ボリュームを作成してください。本製品は、出荷時に4台のドライブで「RAID 5」を構成し、1つのボリュームを作成しています。



ボリュームを作成し直すと、ボリューム内のデータはすべて消去されます。ボリュームを作成し直す場合は、あらかじめデータのバックアップを実行してください。

1 YFS Controller Pro II を呼び出します。(P33 を参照)

2 【ストレージ設定】の中の【ボリューム】を選択します。

システム設定
ネットワーク設定
ストレージ設定
▶ **ボリューム**
フォルダ
バックアップ設定
同期設定

ストレージ設定
ディスク

品番	型番	容量	ステータス
Disk 1	HDS7250	476940	ボリューム [1]
Disk 2	HDS7250	476940	ボリューム [1]
Disk 3	HDS7250	476940	ボリューム [1]
Disk 4	HDS7250	476940	ボリューム [1]

ボリューム

3 以下のような画面が表示されます。

作成し直すボリュームの行をクリックして選択し、【削除】をクリックします。

ボリューム

No.	タイプ	容量(MB)	使用量(MB)	ディスク	ステータス
Volume1	RAID 5	1420740	10006	1,2,3,4	使用中です。

作成 削除 変更 初期化

4 以下の画面が表示されます。

共有フォルダにデータがある場合、注意のダイアログが表示されます。

削除してもいい場合は【OK】をクリックします。



【OK】をクリックすると、共有フォルダとその中に含まれるファイルすべてが削除されます。削除する前に必ずフォルダの中身を確認してください。

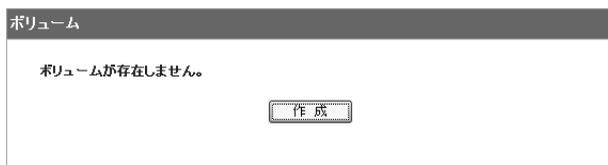
削除

確認

削除すると以下の設定やデータが削除されます。よろしいですか？
共有フォルダ [Volume1] には以下のデータがあります。
share1

OK キャンセル

- 5** しばらくすると、以下の画面が表示されますので、【作成】をクリックします。



- 6** ボリュームの作成画面が現れますので、「タイプ」で RAID のディスク構成を選択してください。選択するタイプによって作成画面の表示が変わりますので、以下のタイプ別の説明を参照し、設定を行ってください。RAID レベルについては P128「1.RAID について知ろう」を参照してください。

・シングルディスクを選択した場合

1 つのボリュームにつき 1 台のドライブを割り当てることができます。「Components」で割り当てるディスクドライブの「R」のチェックボックスにチェックを入れます。シングルディスクは RAID 構成をとらず、ハードディスクを 1 台ずつ使用します。ハードディスクが故障するとデータの読み書きができなくなります。



・RAID 0 を選択した場合

「ストライプサイズ」を設定します。通常は「64KB」を選択してください。2 台以上 4 台までのドライブを割り当てます。「Components」で割り当てるディスクドライブの「R」のチェックボックスにチェックを入れます。他の構成に比べ高速なデータ転送が可能ですが、データの安全性は低下します。



・RAID 1 を選択した場合

2 台のドライブを割り当てます。「Components」で割り当てるディスクドライブの「R」のチェックボックスにチェックを入れます。

追加	
タイプ	<input type="radio"/> シングルディスク <input type="radio"/> RAID 0 <input checked="" type="radio"/> RAID 1 <input type="radio"/> RAID 3 <input type="radio"/> RAID 5
Components (R:RAIDディスク S:スペアディスク)	R <input checked="" type="checkbox"/>  R <input checked="" type="checkbox"/>  R <input type="checkbox"/>  R <input type="checkbox"/>  S <input type="checkbox"/>  S <input type="checkbox"/>  S <input type="checkbox"/>  S <input type="checkbox"/> 
<input type="button" value="OK"/> <input type="button" value="キャンセル"/> <input type="button" value="戻る"/>	

・RAID 3 を選択した場合

3 台もしくは 4 台のドライブを割り当てます。「Components」で割り当てるディスクドライブの「R」のチェックボックスにチェックを入れます。

スペアディスクを設定する場合は 4 台のドライブで構成します。3 台のディスクドライブは「R」にチェックを入れ、残りの 1 台は「S」にチェックを入れます。

追加	
タイプ	<input type="radio"/> シングルディスク <input type="radio"/> RAID 0 <input type="radio"/> RAID 1 <input checked="" type="radio"/> RAID 3 <input type="radio"/> RAID 5
Components (R:RAIDディスク S:スペアディスク)	R <input checked="" type="checkbox"/>  R <input checked="" type="checkbox"/>  R <input checked="" type="checkbox"/>  R <input checked="" type="checkbox"/>  S <input type="checkbox"/>  S <input type="checkbox"/>  S <input type="checkbox"/>  S <input type="checkbox"/> 
<input type="button" value="OK"/> <input type="button" value="キャンセル"/> <input type="button" value="戻る"/>	



RAID 3 構成を成立させるためには、アクティブドライブ (R がチェックされたドライブ) が最低 3 つ設定される必要があります。

・RAID 5 を選択した場合

まず、「ストライプサイズ」を設定します。通常は「64KB」を選択してください。次に、3 台もしくは 4 台のディスクドライブを割り当てます。「Components」で割り当てるディスクドライブの「R」のチェックボックスにチェックを入れます。スペアディスクを設定する場合は 4 台のディスクドライブで構成します。3 台のディスクドライブは「R」にチェックを入れ、残りの 1 台は「S」にチェックを入れます。

追加	
タイプ	<input type="radio"/> シングルディスク <input type="radio"/> RAID 0 <input type="radio"/> RAID 1 <input type="radio"/> RAID 3 <input checked="" type="radio"/> RAID 5
ストライプサイズ	64  KB
Components (R:RAIDディスク S:スペアディスク)	R <input checked="" type="checkbox"/>  R <input checked="" type="checkbox"/>  R <input checked="" type="checkbox"/>  R <input checked="" type="checkbox"/>  S <input type="checkbox"/>  S <input type="checkbox"/>  S <input type="checkbox"/>  S <input type="checkbox"/> 
<input type="button" value="OK"/> <input type="button" value="キャンセル"/> <input type="button" value="戻る"/>	



RAID 5 構成を成立させるためには、アクティブドライブ (R がチェックされたドライブ) が最低 3 つ設定される必要があります。



本製品の工場出荷時の RAID ディスク構成はディスクドライブ 4 台で RAID 5 です。

7 手順 **6** の設定ができれば、【OK】をクリックします。

ボリュームの画面が表示され、【ステータス】にボリューム作成の進行状況が表示されます。



ボリューム作成が完全に終了するまでの時間は作成するボリュームのサイズと RAID の構成により 1 時間～8 時間程度かかります。本製品では、ボリューム作成時に行われる RAID の構築をバックグラウンドで行っていますので、終了したかどうかを意識せずに設定を継続することができます。

ボリューム					
No.	タイプ	容量(MB)	使用量(MB)	ディスク	ステータス
Volume1	RAID 5	1420740	5	1,2,3,4	ボリュームを調整しています。(0.4%)

8 ボリュームの作成が完了したら、さきほど作成したボリュームが設定どおりに構成されていることを確認してください。

既存ボリュームのディスク構成に含まれていないドライブがある場合は、ボリュームを追加作成することができます。必要に応じて【作成】をクリックし、ボリュームを追加してください。

ボリューム					
No.	タイプ	容量(MB)	使用量(MB)	ディスク	ステータス
Volume1	RAID 5	1420740	8	1,2,3,4	使用中です。

4 ユーザ設定とストレージ設定を行う

クライアントマシンの Web ブラウザより、YFS Controller Pro II を呼び出し、本製品を設定します。

使用する Web ブラウザは Java スクリプトを有効にしている必要があります。

Step 3 から引き続き作業する場合は、手順 **2** から行ってください。

1 YFS Controller Pro II を呼び出します。(P33 を参照)

2 まず、グループの登録を行います。

【ユーザー設定】メニューの中の【グループ】を選択します。

初期設定時には、グループは登録されていませんので、“グループが存在しません”というメッセージが表示されます。



3 【作成】をクリックし、グループの登録を行います。

4 「グループ名」を入力します。「グループ ID」は通常自動的につきますが、任意で入力することも可能です。

【OK】をクリックすると、入力したグループが登録されます。

登録	
グループ名	<input type="text" value="staff"/>
グループID	<input type="text" value="101"/>



【グループ名】は半角英数字で最大 16 文字までです。1 文字目に「半角スペース」[-]「+」を使用することはできません。また、「半角スペース」と「: , @ ” ¥ / < > &」を含めることはできません。【グループ ID】は 101 ~ 65535 までです。



バックアップ機能を利用する場合は、【グループ ID】の登録に注意が必要です。詳しくは P76 「バックアップ機能を行う上でのユーザー ID 及びグループ ID について」を参照してください。

- 5** グループの登録が完了すると、登録されたグループがリスト表示されます。引き続きグループを作成する場合は【作成】をクリックします。

グループ			
グループ名	グループID	所属グループ	ドメイン
staff	101		ローカル

- 6** 次に、ユーザの登録を行います。【ユーザー設定】メニューの中の【ユーザ】を選択します。

グループ			
グループ名	グループID	所属グループ	
staff	101		

システム設定

ネットワーク設定

ストレージ設定

ユーザー設定

グループ

▶ ユーザ

アプリケーションIDのみ

- 7** 初期設定時には、ユーザは登録されていないので、“ユーザが存在しません”というメッセージが表示されます。

【作成】をクリックし、ユーザの登録を行います。

ユーザ
ユーザが登録されていません。新規に登録してください。

- 8** 【ユーザー設定】に必要な情報を入力します。【OK】をクリックすると入力したユーザが登録されます。

登録	
ユーザー名	<input type="text" value="taro"/>
フルネーム	<input type="text" value="Taro Yamada"/>
新パスワード	<input type="password" value="....."/>
パスワード確認	<input type="password" value="....."/>
ユーザーID	<input type="text" value="100"/>
所属グループ	<input type="text" value="staff"/>
ホーム	<input type="text" value="Volume1"/>



【ユーザー名】は、半角英数字で最大 32 文字までです。1 文字目に「半角スペース」[-]「+」を使用することはできません。また、「半角スペース」と「:、@、＼、<、>、&」を含めることはできません。ユーザー名に全角文字を使用した場合、正しく認証されません。Windows の場合は、OS にログオンする時と同じユーザー名にしてください。【ユーザー ID】は 100 ~ 65535 までです。



バックアップ機能を利用する場合は、【ユーザー ID】の登録に注意が必要です。詳しくは P76「バックアップ機能を行う上でのユーザー ID 及びグループ ID について」を参照してください。

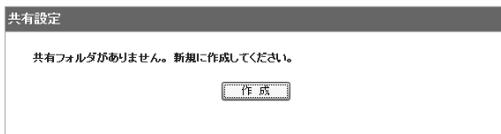
- 9** ユーザの登録が完了すると、登録されたユーザがリスト表示されます。引き続き、ユーザを登録する場合は【作成】を選択します。

ユーザ						
ユーザー名	ユーザーID	フルネーム	グループ名	ホーム	ドメイン	無効
taro	100	Taro Yamada	staff	/shares/Volume1/home/taro	ローカル	<input type="checkbox"/>

- 10** 続いて、共有フォルダの登録を行います。【ストレージ設定】メニューの中の【フォルダ】を選択します。



- 11** 初期設定時には、共有フォルダは登録されていないので、“共有フォルダがありません”というメッセージが表示されます。【作成】をクリックし、共有フォルダの登録を行います。



- 12** 「共有フォルダ」に必要な情報を入力します。「フォルダー名」を入力します。「フォルダー名」はクライアントマシンに表示される共有フォルダの名称です。「パス」は、本製品の内部に設定されるフォルダー名です。「パス」と「フォルダー名」は必ず同じ名前に設定します。【OK】をクリックすると入力した共有フォルダが登録されます。フォルダの詳細については P74 を参照してください。

作成	
フォルダー名	<input type="text" value="share"/>
ボリューム	<input type="text" value="Volume1"/>
パス	<input type="text" value="/shares/Volume1/share"/>
フォルダの説明	<input type="text"/>
標準アクセス権	<input type="text" value="書込可能"/>
サービス	<input checked="" type="checkbox"/> SMB <input checked="" type="checkbox"/> AFP <input type="checkbox"/> NFS



注意

【フォルダ名】の使用できる文字は、半角英数字で最大 16 文字まで、全角で 3～5 文字までです。

- 13** フォルダの登録が完了すると、登録された共有フォルダがリスト表示されます。引き続き、フォルダを登録する場合は【作成】をクリックします。

共有設定				
フォルダ名	パス	フォルダの説明	標準アクセス権	SMB/AFP/NFS
share	/shares/Volume1/share	Public S...	書込可能	<input checked="" type="checkbox"/> / <input checked="" type="checkbox"/> / <input type="checkbox"/>

- 14** 登録したフォルダのアクセス権を設定します。
【ユーザー設定】メニューの中の【アクセス権(簡易)】を選択します。

ストレージ設定	ユーザー設定	グループ	ユーザ
	グループ		
	ユーザ		
	アクセス権(簡易)		
	アクセス権(詳細)		
	クォータ		
	ネットワーク		

nanako	100	Mianako Okada
taro	100	Taro Yamada

- 15** 【共有フォルダ】からアクセス権を設定するフォルダを選択します。
【ユーザ/グループ】のアクセス権を設定し、【登録/更新】をクリックします。
アクセス権(簡易)の詳細い設定については P101 を参照してください。

アクセス権(簡易)	
共有フォルダ	share ▼
クライアント	<input type="radio"/> Windows / Macintosh <input type="radio"/> Unix

ユーザ/グループ	読出可能	書込可能	接続不可
GUEST	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>
staff	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>



"GUEST" ユーザのアクセス権は、初期設定では接続不可に設定されています。

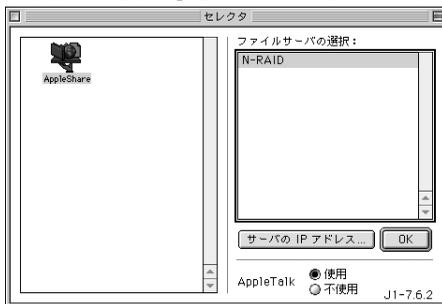
- これでクライアントマシンからの接続が可能になり、ファイル共有の準備が完了しました。
引き続き、Step 5 を参照し、クライアントマシンから共有フォルダへの接続を確認します。

クライアント（ユーザ）からサーバに接続してみましょう。

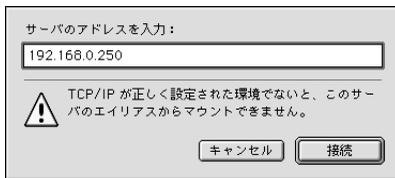
Mac OS 8.5.1 ～ 9.2.2 の場合

以下の手順でサーバに接続します。外部のネットワークから接続する場合も同じ手順で行います。

- 1** 【アップルメニュー】→【セレクト】を開きます。【AppleShare】を選択し、【ファイルサーバの選択】で「N-RAID（サーバー名）」を選び、【OK】をクリックします。

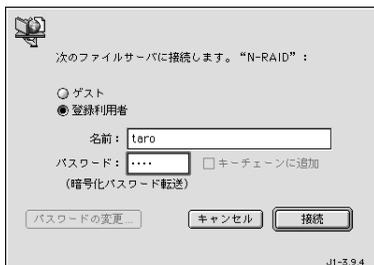


IP アドレスで指定する場合は、【サーバの IP アドレス】をクリックします。サーバの IP アドレスを「XXX.XXX.XXX.XXX」のように入力し、【接続】をクリックします。



図の数値は入力例です。
この情報はネットワーク管理者より
入手してください。

- 2** 「登録利用者」を選び、「名前：」と「パスワード：」の欄に登録したユーザー名とパスワードを入力し、【接続】をクリックします。



注意

サーバが表示されない、あるいはユーザー認証画面に進まない場合は、【Step 2】を参照し AppleTalk が有効になっているかどうか確認してください。

- 3** 使用したい共有フォルダを選択し、【OK】をクリックします。



- 4** 選択した共有フォルダがデスクトップに現れます。フォルダにアクセスして使
用します。



Mac OS X 10.2 ~の場合

以下の手順でサーバに接続します。外部のネットワークから接続する場合も同じ手順で行います。

- 1** 【移動メニュー】 → 【サーバへ接続...】を開きます。

- 2** サーバアドレスを入力し、【接続】をクリックします。

「サーバアドレス：」欄には次のように入力します。

【サーバアドレス afp://XXX.XXX.XXX.XXX】



図の数値は入力例です。
この情報はネットワーク管
理者より入手してくださ
い。



【移動メニュー】から【ネットワーク】を開き、「N-RAID」を選択して **接続** をクリッ
クしても接続することができます。

- 3** 【登録ユーザ】を選び、「名前：」と「パスワード：」の欄に登録したユーザー名とパスワードを入力し、【接続】をクリックします。



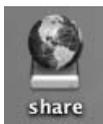
注意

ユーザー認証画面に進まない場合は、【Step 2】を参照し AppleTalk が有効になっているかどうか確認してください。

- 4** 使用したい共有フォルダを選択し、【OK】をクリックします。



- 5** 選択した共有フォルダがデスクトップに現れます。フォルダにアクセスして使用します。



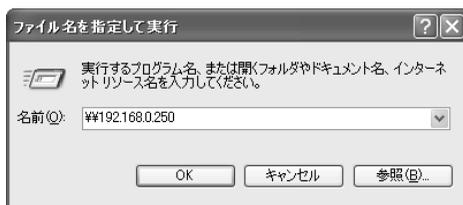
Windows の場合

- 1** デSKTOP上の【ネットワークコンピュータ】か【マイネットワーク】を開き、【ネットワーク全体】→（【Microsoft Windows Network】→）【Workgroup】→【N-raid（サーバー名）】を開きます。

Windows XPの場合、【マイネットワーク】→【ワークグループのコンピュータを表示する】→【N-raid（サーバー名）】を開きます。



IPアドレスで指定する場合は、【スタート】→【ファイル名を指定して実行】を開き、名前欄に【¥¥XXX.XXX.XXX.XXX】のように入力し、【OK】をクリックします。



図の数値は入力例です。
この情報はネットワーク管理者より入手してください。



サーバが表示されないあるいはユーザー認証画面に進まない場合は、【Step 2】を参照しファイル共有が有効になっているかどうか確認してください。

- 2** ユーザー名とパスワードを入力し、【OK】をクリックします。



3 表示されている共有フォルダにアクセスして使用します。

2 サーバを終了する

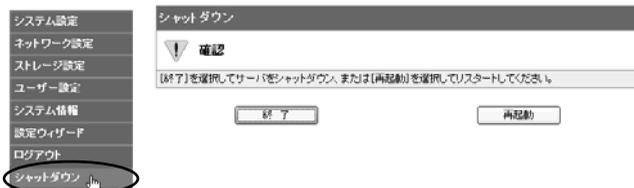
長時間使用しない場合などには以下の手順で本製品を終了してください。
また、本製品の電源スイッチを押してすぐに離しても、サーバを終了させることができます。



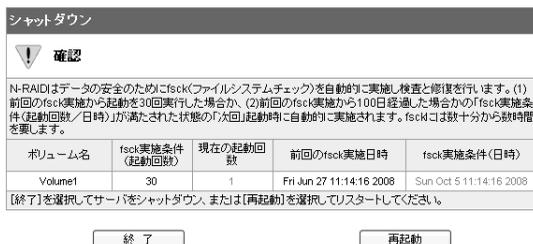
サーバを終了する場合、本製品に接続しているクライアントの状況を確認してから終了してください。

1 YFS Controller Pro II を呼び出します。(P33 を参照)

2 【シャットダウン】を選択します。



3 確認の画面が表示されます。内容を確認し、【終了】をクリックします。
確認の詳しい内容については、P118を参照してください。



4 再度、確認の画面が表示されます。【OK】をクリックします。



これでサーバは終了し、電源が自動的に切れます。

サーバを強制終了する場合

サーバの異常時などで、上記の手順ではサーバを終了させることができない場合は、本体背面の電源スイッチを押し込んだまま数秒間待つと、電源は強制的に切れます。強制的に電源を切った場合、本製品は異常終了したと認識し、次の起動時に復旧動作 (RAID 構成のチェック) を行うことがありますのでご注意ください。復旧動作 (RAID 構成のチェック) にはデータ容量などにより、2 時間～8 時間程度要します。

Chapter

3

YFS Controller Pro II で設定する

Web ブラウザから呼び出して、本製品の設定を行う管理ソフトのことを「YFS Controller Pro II」といいます。

ここでは、YFS Controller Pro II での設定について説明します。

YFS Controller Pro II には、「システム設定」「ネットワーク設定」「ストレージ設定」「ユーザー設定」「システム情報」「設定ウィザード」「ログアウト」「シャットダウン」という 8 つのメニューがあり、これらの設定メニューで本製品に関するさまざまな設定を行います。

YFS Controller Pro II を起動する

以下の手順で YFS Controller Pro II を呼び出してから、設定を行います。

- 1** Web ブラウザを起動します。URL を入力し、< Enter >キーを押します。

DHCPサーバがある場合

- ・ URL の入力方法 http:// Step 1 で確認した IP アドレス /

DHCPサーバがない場合

- ・ URL の入力方法 http://192.168.0.250 / ※この数値は入力例です。

- 2** ユーザー名（ユーザー ID）とパスワードを確認するダイアログが表示されますので、ユーザー名を「nasroot」、パスワードに「00000000」（数字の 0 が 8 個）と入力します。

すでにパスワードを変更している場合は、変更後のパスワードを入力します。入力できたら【ログイン】をクリックします。

サーバにログインします。N-RAID	
ユーザー名	<input type="text" value="nasroot"/>
パスワード	<input type="password" value="00000000"/>
<input type="button" value="ログイン"/>	

- 3** ログインすると、システム情報の画面が現れます。

システム情報	
会社名	Yano Electric
製品名	N-RAID
型番	4000T
シリアル番号	000154
ハードウェア	1.2
ファームウェア	1.0C(2007.06.09)

設定の内容を確認したり、変更したりする場合は、左側の設定項目から該当するメニューを選択します。

各設定メニューについての詳しい説明は、該当するページを参照してください。

- ・ システム設定P53
- ・ ネットワーク設定P65
- ・ ストレージ設定P71
- ・ ユーザー設定P95
- ・ システム情報P113
- ・ 設定ウィザードP33
- ・ ログアウトP117
- ・ シャットダウンP118

システム設定では、「サーバー名」「使用言語」「日付&時刻」「コンフィグ(保存/復元)」「コンフィグ(初期化)」「UPS」「障害通知」「ファームウェア」「パスワード」に関する設定を行います。

システム設定をクリックすると、[サーバー名]、[表示言語]、[コードページ1 (Windows95,98)]、[コードページ2 (Mac OS X 以前)]、[日付]、[タイムゾーン]など、現在のシステム状況が表示されます。

システム設定	
サーバー名	NRAID
表示言語	Japanese
コードページ1(Windows95/98)	Japanese SJIS(932)
コードページ2(Mac OS X以前)	Japanese (Mac)
日付	02/08/2007 14:15:05
タイムゾーン	Asia/Tokyo,Osaka,Sapporo

サーバー名

ファイル共有時にクライアントマシンで識別されるサーバー名を設定します。

- 1 YFS Controller Pro II を呼び出します。(P52 を参照)
- 2 【システム設定】メニューの中の【サーバー名】を選択します。
- 3 以下のような画面が表示されます。表を参照のうえ設定してください。

サーバー名	
サーバー名	<input type="text" value="N-RAID"/>
<input type="button" value="登録/更新"/> <input type="button" value="キャンセル"/>	

サーバー名	<p>ファイル共有時にクライアントマシンで識別されるサーバー名を設定します。本製品に設定するサーバー名を 14 文字以内で入力します。</p> <p>サーバー名には半角英数字と「-」「_」を使用してください。同一ネットワーク上に重複したサーバー名を設定することはできません。他のサーバとサーバー名が重複しないように注意してください。出荷時はユニークなサーバー名が設定されています。変更する場合は、同一ネットワーク内でサーバー名が重複しないように注意してください。</p>
-------	---

- 4 設定が完了したら、【登録/更新】をクリックします。

使用言語

YFS Controller Pro II が表示する言語と、クライアントマシンからファイル共有を行う時のファイル名やフォルダ名のコードページを設定します。
通常コードページは変更する必要がありません。

- 1 YFS Controller Pro II を呼び出します。(P52 を参照)
- 2 【システム設定】メニューの中の【使用言語】を選択します。
- 3 以下のような画面が表示されます。表を参照のうえ設定してください。

使用言語	
表示言語	Japanese
コードページ1(Windows95/98)	Japanese SJIS(932)
コードページ2(Mac OS X以前)	Japanese (Mac)
<input type="button" value="登録 / 更新"/> <input type="button" value="キャンセル"/>	

表示言語	YFS Controller Pro II の表示言語を設定します。 初期設定は「Japanese」です。 ※Browser Default Languages を選択すると、Web ブラウザの言語設定に合わせて表示されます。
コードページ1 (Windows95/98)	クライアントマシンにWindows98を使用した時のコードページを設定します。 この設定で他のバージョンのWindowsは影響を受けません。 初期設定は「Japanese SJIS」です。
コードページ2 (Mac OS 9 以前)	クライアントマシンに Mac OS 9 を使用した時のコードページを設定します。 初期設定は「Japanese (Mac)」です。

- 4 設定が完了したら、【登録 / 更新】をクリックします。

日付&時刻

サーバに日付と時刻を設定します。

- 1 YFS Controller Pro II を呼び出します。(P52 を参照)
- 2 【システム設定】メニューの中の【日付&時刻】を選択します。
- 3 以下のような画面が表示されます。表を参照のうえ設定してください。

日付&時刻		
日付	11	/ 10 / 2006
時間	18	: 8 : 53
エリア	Asia	
都市	Tokyo,Osaka,Sapporo	
NTPサーバ	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> 手入力 time.nist.gov	

日付	日付を設定します。
時間	時刻を設定します。
エリア	エリアを設定します。
都市	都市を設定します。
NTPサーバ	<p>NTP サーバを使用して日付と時刻を自動調整する場合は、「はい」のチェックボックスをクリックします。NTP サーバのリストから任意のサーバを選択します。</p> <p>NTP サーバの IP アドレスを直接指定する場合は、「手入力」のチェックボックスをクリックし、NTP サーバの IP アドレスを入力します。半角数字を「.」で4つに区切って入力してください。</p>

- 4 設定が完了したら、【登録 / 更新】をクリックします。

コンフィグ（保存 / 復元）

サーバのシステム設定をファイル化して、バックアップ（保存）やリストア（復元）を行います。

保存 / 復元

- 1 YFS Controller Pro II を呼び出します。（P52 を参照）
- 2 【システム設定】メニューの中の【コンフィグ（保存 / 復元）】を選択します。
- 3 以下のような画面が表示されます。表を参照のうえ設定してください。

コンフィグ(保存/復元)	
バックアップ / リストア	<input checked="" type="radio"/> バックアップ <input type="radio"/> リストア
以下の設定を保存/復元します。全てのシステム設定、ユーザー設定、および共有設定	
ファイルの参照	<input type="text"/> <input type="button" value="参照..."/>

バックアップ / リストア	サーバ設定ファイルを作成し、クライアントマシンへダウンロードするには「バックアップ」を選択します。 すでに、クライアントマシンにダウンロードされた設定ファイルをアップロードして設定を行うには「リストア」を選択します。
---------------	---

■ 設定ファイルのバックアップ

- 1 バックアップを選択して【OK】をクリックすると、YFS Controller Pro II のサーバログインの画面が表示されます。ログイン名とパスワードを入力します。
- 2 サーバは設定ファイルを作成しクライアントマシンへダウンロードを要求します。ご使用の Web ブラウザによっては、セキュリティ保護のため以下の画面が出る場合があります。その場合は右クリックのサブメニューから、ファイルのダウンロードを選択します。



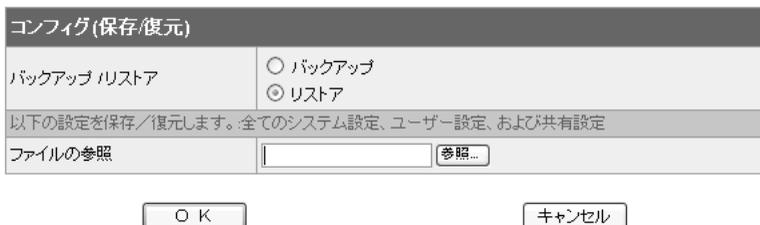
- 3 ファイルを保存する場所を指定し、ファイルのダウンロードのダイアログが表示されますので、確認後【保存】をクリックします。



■ 設定ファイルのリストア

「リストア」を選択して、「ファイルの参照」に、セーブされている設定ファイルのパスを入力します。【参照】ボタンをクリックするとローカルファイルのリストア参照して、目的のファイルを選択することもできます。

【OK】をクリックすると、クライアントマシンは指定された設定ファイルをサーバへアップロードします。



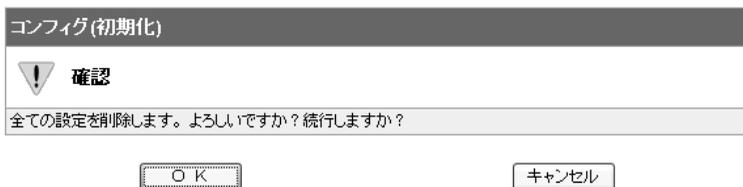
コンフィグ（初期化）

サーバのシステム設定を初期化して工場出荷時の状態に戻します。



サーバの全ての設定が初期化され、データも消去されます。設定の初期化を行う場合は、あらかじめデータのバックアップを実行してください。

- 1 YFS Controller Pro II を呼び出します。（P52 を参照）
- 2 【システム設定】メニューの中の【コンフィグ（初期化）】を選択します。
- 3 以下のような画面が表示されます。



- 4 初期化してよければ【OK】をクリックします。

UPS

サーバに接続された、UPS（無停電電源装置）の停電監視を設定します。



当社で推奨する UPS は以下のとおりです。

- ・ APC 社製 Back-UPS ES 500 (USB)

- 1** YFS Controller Pro II を呼び出します。(P52 を参照)
- 2** 【システム設定】メニューの中の【UPS】を選択します。
- 3** 以下のような画面が表示されます。表を参照のうえ設定してください。

UPS	
UPS監視	<input type="radio"/> 設定する <input checked="" type="radio"/> 設定しない
『設定する』を選択した場合にのみ、以下も設定してください。	
UPSの選択	<input type="text" value="選択してください"/>
停電後の待機時間	<input type="text" value="5"/> 分

UPS 監視	UPS の停電監視を行うかどうかを選択します。
以下の設定は、UPS 監視に「設定する」を選択した場合に有効となります。	
UPS の選択	APC Back-UPS ES 500(USB)を選択します。
停電後の待機時間	UPS の停電を検出してからサーバーのシャットダウンを行うまでの時間を入力します。

- 4** 設定が完了したら、【登録 / 更新】をクリックします。

障害通知

サーバに障害が発生した時の設定を行います。

障害通知は、ブザーによる通知とメールによる通知を行うことができます。

ブザー通知設定

サーバに障害が発生した時にブザーによる通知の設定を行います。

- 1** YFS Controller Pro II を呼び出します。(P52 を参照)
- 2** 【システム設定】メニューの中の【障害通知】を選択します。
- 3** 以下のような画面が表示されます。次ページの表を参照のうえ設定してください。

障害通知			
ステータス	<input checked="" type="radio"/> ブザー <input type="radio"/> メール		
ブザー	<input checked="" type="radio"/> 設定する <input type="radio"/> 設定しない		
温度	ファン	ディスク	ボリューム
<input checked="" type="checkbox"/> CPU	<input checked="" type="checkbox"/> System ファン	<input checked="" type="checkbox"/> Disk1 <input checked="" type="checkbox"/> Disk2 <input checked="" type="checkbox"/> Disk3 <input checked="" type="checkbox"/> Disk4	<input checked="" type="checkbox"/> Volume1
<input type="button" value="登録/更新"/>		<input type="button" value="キャンセル"/>	

ステータス	通知方法を選択します。「メール」を選択すると画面が切り替わります。詳細については次ページを参照。
ブザー	ブザーによる通知をするかどうかを選択します。
温度	CPU 温度の異常が検知された場合に通知するかどうかを選択します。通知を行わない場合は、スピーカーマークをクリックし、「×」を表示させます。『CPU』という文字が緑色の場合は正常に動作しています。赤字の場合は高温による温度異常の障害です。赤字の場合には P131 の「たびたび温度異常の警告がでる」を参照してください。
ファン	ファンの異常が検知された場合に通知するかどうかを選択します。通知を行わない場合は、スピーカーマークをクリックし、「×」を表示させます。『System ファン』という文字が緑色の場合はファンが正常に動作しています。
ディスク	ディスクの異常が検知された場合にブザーを鳴らすかどうかを選択します。『Disk』という文字が緑色の場合はディスクが正常に動作しています。ディスクに何らかの障害が発生している場合は赤字で表示されます。赤字の場合には P121 の「2. 障害が発生した時は」を参照してください。ブザーを止める場合はスピーカーマークをクリックし、「×」を表示させます。
ボリューム	ボリュームの異常が検知された場合に通知するかどうかを選択します。障害に応じて黄字や赤字で表示されます。『Volume』という文字が緑色の場合は RAID の構成に問題はありません。黄字の場合はディスクの障害によって RAID 構成の冗長性が失われています。黄字の場合には P121 の「2. 障害が発生した時は」を参照してください。赤字の場合は RAID 構成を保つことができなくなっています。赤字の場合には至急、弊社カスタマサポートへお問い合わせください。ブザーを止める場合はスピーカーマークをクリックし、「×」を表示させます。通知を行わない場合は、スピーカーマークをクリックし、「×」を表示させます。

4 設定が完了したら【登録 / 更新】をクリックします。

メール通知設定

サーバに障害が発生した時にメールによる通知の設定を行います。

- 1** YFS Controller Pro II を呼び出します。(P52 を参照)
- 2** 【システム設定】メニューの中の【障害通知】を選択します。
- 3** 「ステータス」の項目で「メール」を選択します。
- 4** 以下のような画面が表示されます。表を参照のうえ設定してください。

障害通知	
ステータス	<input type="radio"/> ブザー <input checked="" type="radio"/> メール
メール	<input checked="" type="radio"/> 設定する <input type="radio"/> 設定しない
メールサーバ(IPアドレスまたはホスト名)	<input type="text" value="mail.example.co.jp"/>
Auth Type	NO AUTH <input type="button" value="▼"/>
発信者メールアドレス	<input type="text" value="nraid@example.co.jp"/>
送信先メールアドレス 1	<input type="text" value="terao@example.co.jp"/>
送信先メールアドレス 2	<input type="text"/>
送信先メールアドレス 3	<input type="text"/>
テストメールを送信	<input type="radio"/> はい <input checked="" type="radio"/> いいえ

図の値は入力例です。
この情報はネットワーク管理者より入手してください。

ステータス	通知方法を選択します。”ブザー”を選択すると画面が切り替わります。詳細については前ページを参照。
メール	メールによる通知をするかどうかを選択します。
メールサーバ	メールによる通知をするメールサーバを入力します。IPアドレスもしくはホスト名を入力します。
Auth Type	認証が必要なメールサーバの場合は、[AUTH LOGIN]、不要な場合は、[NO AUTH]を選択します。
発信者メールアドレス	メールのヘッダに付加する発信者メールアドレスを入力します。
送信先メールアドレス1~3	通知先のメールアドレスを入力します。必要に応じ3つまで入力することが可能です。
テストメールを送信	設定時にテストメールを送る場合には「はい」を選択します。

- 5** 設定が完了したら【登録 / 更新】をクリックします。

ファームウェア

サーバのファームウェア（サーバソフトウェア）の更新を行います。

- 1 YFS Controller Pro II を呼び出します。（P52 を参照）
- 2 【システム設定】メニューの中の【ファームウェア】を選択します。
- 3 以下のような画面が表示されます。表を参照のうえ設定を行ってください。

ファームウェア	
現在使用しているファームウェアは【1.0F(2008/01/28)】です。これより新しいファームウェアを選択してください。	
ファイルの参照	<input type="text"/> <input type="button" value="参照..."/>
<input type="button" value="OK"/> <input type="button" value="キャンセル"/>	
ファイルの参照	クライアント上のファームウェアファイルの保存先を指定します。【参照】をクリックしてファイルを指定することもできます。

- 4 設定が完了したら【OK】をクリックします。
- 5 ファームウェアの更新が完了するとサーバの再起動を要求されますので、画面の指示に従って再起動を行います。

パスワード

YFS Controller Pro II にログインするパスワードを変更します。

- 1** YFS Controller Pro II を呼び出します。(P52 を参照)
- 2** 【システム設定】メニューの中の【パスワード】を選択します。
- 3** 以下のような画面が表示されます。表を参照のうえ設定してください。

パスワード	
旧パスワード
新パスワード
パスワード確認

旧パスワード	旧パスワードを入力します。
新パスワード	変更するパスワードを入力します。使用できる文字は半角英数字で最大14文字までです。
パスワード確認	新パスワードで入力したものと同一パスワードを入力します。

- 4** 設定が完了したら、【登録 / 更新】をクリックします。

ネットワークでは、「ネットワーク設定」「Macintosh」「Windows」「UNIX」に関する設定を行います。

ネットワーク設定

サーバの IP アドレスは、Step 1 の手順で設定された値になっています。

YFS Controller Pro II では、既存のネットワークに導入するために、さらに詳細なネットワーク設定を行うことができます。

1 YFS Controller Pro II を呼び出します。(P52 を参照)

2 【ネットワーク設定】メニューを選択します。

3 以下のような画面が表示されます。次ページの表を参照のうえ設定してください。

ネットワーク設定	
ネットワーク	Ether0
IP設定	手入力
IPアドレス	192.168.0.250
サブネットマスク	255.255.255.0
ルータアドレス	192.168.0.1
速度	Auto
DNSサーバーアドレス	192.168.0.2

登録 / 更新

キャンセル

図の数値は入力例です。
この情報はネットワーク管理者より入手してください。

4 設定が完了したら、【登録 / 更新】をクリックします。

ネットワーク	ネットワークインターフェイスの選択を行います。「Ether0」が選択されていることを確認します。
IP 設定	IP アドレスを DHCP/BOOTP サーバより取得するか、手入力で設定するかを選択します。
IP アドレス	IP 設定で手入力を選択した場合、サーバーの IP アドレスを入力します。「.」で 4 つに区切って入力してください。使える文字は、半角数字と「.」のみです。
サブネットマスク	IP 設定で手入力を選択した場合、ネットワークのサブネットマスクを設定します。「.」で 4 つに区切って入力してください。使える文字は、半角数字と「.」のみです。
ルータアドレス	IP 設定で手入力を選択した場合、ネットワークのルータアドレス（デフォルトゲートウェイ）を指定します。「.」で 4 つに区切って入力してください。使える文字は、半角数字と「.」のみです。
速度	ネットワークインターフェイスの速度を選択します。「Auto」を選択すると、接続したネットワークを検出し、自動的に最適な速度に設定されます。
DNS サーバーアドレス	DNS (Domain Name Service) サーバーのアドレスを指定します。「.」で 4 つに区切って入力してください。使える文字は、半角数字と「.」のみです。



IP アドレスを変更すると、YFS Controller Pro II を呼び出す時の IP アドレスも変更されますのでご注意ください。



「速度」の項目設定で、接続しているハブの最高速度よりも速い速度に設定した場合、接続できなくなります。速度変更により接続できなくなった場合には、設定した速度に対応したハブに接続しなおし再起動してください。それでもうまく接続できない場合は、弊社カスタマサポートへお問い合わせください。

Macintosh

サーバの共有ファイルを Macintosh から使用するための設定を行います。



すでに、Macintosh からファイル共有を行っている時に、この設定を変更すると接続が切断されます。各クライアントのファイル共有を終了してから、設定を行ってください。

- 1** YFS Controller Pro II を呼び出します。(P52 を参照)
- 2** 【ネットワーク設定】メニューの中の【Macintosh】を選択します。
- 3** 以下のような画面が表示されます。表を参照のうえ設定してください。

Macintosh	
オン/オフ	<input type="radio"/> 設定する <input type="radio"/> 設定しない
PDC認証	<input checked="" type="checkbox"/> 設定する
ゾーン名	ゾーン[<]は利用できません。▼

登録/更新

キャンセル

オン/オフ	Macintosh ファイル共有の使用/不使用を設定します。
PDC 認証	Windows で "セキュリティレベル" を「ドメイン」に設定した場合にチェックが可能になります。 チェックを入れると、Macintosh から N-RAID へ接続した時に N-RAID がドメインコントローラへ認証の問い合わせをします。
ゾーン名	サーバが接続されたネットワークに AppleTalk ゾーンが存在する場合に、サーバが所属するゾーンを選択します。 ゾーンがない場合は、『ゾーン[<]は利用できません。』と表示されます。

- 4** 設定が完了したら【登録/更新】をクリックします。

Windows

サーバの共有ファイルを Windows から使用するための設定を行います。

- 1 YFS Controller Pro II を呼び出します。(P52 を参照)
- 2 【ネットワーク設定】メニューの中の【Windows】を選択します。
- 3 以下のような画面が表示されます。表を参照のうえ設定してください。

Windows	
オン/オフ	<input checked="" type="radio"/> 設定する <input type="radio"/> 設定しない
サーバー名	NRAID
セキュリティレベル	ユーザ ▼
ワークグループ	workgroup
PDC名	
PDC管理者名	
PDC管理者パスワード	
ユーザーID(最小-最大)	40000 --- 50000
グループID(最小-最大)	40000 --- 50000
サーバー概要	NRAID
WINSサーバーIPアドレス	

オン/オフ	Windows ファイル共有の使用/不使用を設定します。
サーバー名	現在のサーバー名を表示します。
セキュリティレベル	<p>Windows 共有でのサーバのセキュリティレベルの設定で、「ユーザ」、「ドメイン」または「Active Directory」を選択します。「ユーザ」は、ユーザ認証をクライアントとサーバ間のみで行うもので、ワークグループの定義が必要です。</p> <p>「ドメイン」は、サーバが WindowsNT などのドメインに追加されていて、ユーザ認証の時はサーバがドメインコントローラに問い合わせを行います。</p> <p>「Active Directory」は、サーバが Active Directory に追加されていて、ユーザ認証の時はサーバがドメインコントローラに問い合わせを行います。</p>
【セキュリティレベル】	で「ユーザ」を選択すると下の項目は【ワークグループ】になります。
ワークグループ	サーバが参加するワークグループを入力します。

次ページへ続く

【セキュリティレベル】で「ドメイン」を選択すると下の項目は【ドメイン名】になり、【PDC 名】【PDC 管理者名】【PDC 管理者パスワード】【ユーザー ID (最小-最大)】【グループ ID (最小-最大)】が入力可能となります。

ドメイン名	サーバが参加するドメイン名を入力します。
PDC名	サーバが参加するドメインの PDC 名を入力します。
PDC管理者名	PDC 管理者のユーザ名を入力します。
PDC管理者パスワード	PDC 管理者のパスワードを入力します。
ユーザーID(最小-最大)	ドメインユーザに割り当てるIDの範囲を入力します。初期値は最小40000-最大60000になっており、ドメインユーザ数が20000以内であれば変更する必要はありません。
グループID(最小-最大)	ドメイングループに割り当てるIDの範囲を入力します。初期値は最小40000-最大60000になっており、ドメイングループ数が20000以内であれば変更する必要はありません。

【セキュリティレベル】で「Active Directory」を選択すると下の項目は【ドメイン名】【AD 管理者名】【AD 管理者パスワード】になり、【AD 管理者名】【AD 管理者パスワード】【ユーザー ID (最小-最大)】【グループ ID (最小-最大)】が入力可能となります。

ドメイン名	サーバが参加するドメイン名を入力します。
AD管理者名	Active Directory 管理者のユーザ名を入力します。
AD管理者パスワード	Active Directory 管理者のパスワードを入力します。
ユーザーID(最小-最大)	Active Directoryユーザに割り当てるIDの範囲を入力します。初期値は最小40000-最大60000になっており、Active Directoryユーザ数が20000以内であれば変更する必要はありません。
グループID(最小-最大)	Active Directoryグループに割り当てるIDの範囲を入力します。初期値は最小40000-最大60000になっており、Active Directoryグループ数が20000以内であれば変更する必要はありません。
サーバー概要	Windows のマイネットワークのコメントで表示される内容を入力します。使える文字は、半角英数字で最大 32 文字、漢字・ひらがなで最大 16 文字です。
WINSサーバ IPアドレス	WINS 機能を使用する場合、WINS サーバの IP アドレスを指定します。「.」で 4 つに区切って入力してください。使える文字は、半角数字と「.」のみです。



「Active Directory」において以下の制限事項があります。

- ・「NetBIOS name」による設定は可能ですが、「DNS name」による設定は行えません。
N-RAID と Active Directory の Domain Controller が異なるサブネットに存在する環境において Active Directory の設定を行う場合は、WINS Server が別途必要になります。

4

設定が完了したら【登録 / 更新】をクリックします。

UNIX

サーバの共有ファイルを UNIX から使用するための設定を行います。

- 1 YFS Controller Pro II を呼び出します。(P52 を参照)
- 2 【ネットワーク設定】メニューの中の【UNIX】を選択します。
- 3 以下のような画面が表示されます。表を参照のうえ設定してください。

UNIX	
オン/オフ	<input type="radio"/> 設定する <input checked="" type="radio"/> 設定しない
<input type="checkbox"/> NISドメインを利用する	<input type="text" value="(none)"/>
<input type="button" value="登録 / 更新"/> <input type="button" value="キャンセル"/>	

オン/オフ	UNIX ファイル共有の使用/不使用を設定します。
-------	---------------------------

以下の設定は、オン/オフに「設定する」を選択した場合に有効となります。

NISドメインを利用する	ユーザ認証などにNISサーバを参照する場合に、チェックを入れNISドメイン名を入力します。
--------------	---



注意

[NISドメインを利用する]にチェックした場合、NISドメインのユーザにN-RAIDのユーザと同じ名前があった場合、「ユーザ [×××] は既に存在します。」という警告が表示され、NISドメインのユーザは使用できません。NISドメインを利用する際は、N-RAIDの同一ユーザ名を削除するか、ユーザー名を変更してください。

- 4 設定が完了したら【登録 / 更新】をクリックします。

4 ストレージ設定

ストレージ設定では、「ボリューム」「フォルダ」「バックアップ設定」に関する設定を行います。

ストレージ設定をクリックすると、ディスクとボリュームの現在の状況が表示されます。

ストレージ設定					
ディスク					
品番	型番	容量	ステータス		
Disk 1	HDS7250	476940	ボリューム [1]		
Disk 2	HDS7250	476940	ボリューム [1]		
Disk 3	HDS7250	476940	ボリューム [1]		
Disk 4	HDS7250	476940	ボリューム [1]		

ボリューム					
No.	タイプ	容量(MB)	使用量(MB)	ディスク	ステータス
Volume1	RAID 5	1420740	10006	1,2,3,4	使用中です。

ボリューム



本製品は、搭載されているドライブを「ボリューム」として取り扱います。お使いの用途に合わせ、搭載されている4台のドライブで「シングルディスク」もしくは「RAID」を構成し、ボリュームを作成してください。本製品は、出荷時に4台のドライブで「RAID 5」を構成し、1つのボリュームを作成しています。

- 1 YFS Controller Pro II を呼び出します。(P52 を参照)
- 2 【ストレージ設定】メニューの中の【ボリューム】を選択します。
- 3 以下のような画面が表示されます。表を参照のうえ設定してください。

ボリューム					
No.	タイプ	容量(MB)	使用量(MB)	ディスク	ステータス
Volume1	RAID 5	1420740	10006	1,2,3,4	使用中です。

作成 削除 変更 初期化

No.	ボリュームのナンバーです。
タイプ	ボリュームのディスク構成を表示します。
容量 (MB)	ボリューム全体の容量をMBで表示します。
使用量 (MB)	ボリューム内で使用されている容量をMBで表示します。
ディスク	搭載されているドライブのうち、ボリュームに構成されているディスクのナンバーが表示されます。
ステータス	ボリュームの状態を表示します。
作成	既存ボリュームのディスク構成に含まれていないドライブがある場合に、ボリュームを追加作成します。P38の 6 と同様の手順で作成してください。
削除	既存のボリュームを削除します。削除したいボリュームを選択し、「削除」をクリックします。新たにボリュームを作成し直す場合は、P37を参照してください。
変更	既存ボリュームの設定内容を変更します。変更したいボリュームを選択し、「変更」をクリックします。
初期化	選択したボリューム内のデータを初期化します。初期化したいボリュームを選択し、「初期化」をクリックします。

フォルダ

共有フォルダの設定を行います。

- 1 YFS Controller Pro II を呼び出します。(P52 を参照)
- 2 【ストレージ設定】メニューの中の【フォルダ】を選択します。
- 3 以下のような画面が表示されます。表を参照のうえ設定してください。

共有設定				
フォルダ名	パス	フォルダの説明	標準アクセス権	SMB/AFP/NFS
share	/shares/Volume1/share		書込可能	<input checked="" type="checkbox"/> / <input checked="" type="checkbox"/> / <input type="checkbox"/>
作成		削除		変更

フォルダ名	設定したフォルダ名を表示します。
パス	サーバー上のボリュームに作成されたパスを表示します。
フォルダの説明	フォルダ作成時および変更時に入力したフォルダの説明を表示します。
標準アクセス権	フォルダの基本的なアクセス権を表示します。
SMB/AFP/NFS	SMB・・・SMB サービスが開始されている場合にチェックマークがつきます。 AFP・・・AFP サービスが開始されている場合にチェックマークがつきます。 NFS・・・NFS サービスが開始されている場合にチェックマークがつきます。
作成	フォルダを新規に作成します。詳しくは次ページを参照。
削除	作成済みのフォルダを削除します。詳しくは P75 を参照。
変更	作成済みのフォルダ設定を変更します。詳しくは P75 を参照。

フォルダの作成

- 1** フォルダリスト下の【作成】をクリックすると、以下のような画面が表示されま
す。表を参照のうえ設定してください。

作成	
フォルダー名	<input type="text"/>
ボリューム	Volume1 ▼
パス	/shares/Volume1/ <input type="text"/>
フォルダの説明	<input type="text"/>
標準アクセス権	書込可能 ▼
サービス	<input checked="" type="checkbox"/> SMB <input checked="" type="checkbox"/> AFP <input type="checkbox"/> NFS
<input type="button" value="OK"/> <input type="button" value="キャンセル"/> <input type="button" value="戻る"/>	

フォルダー名	フォルダー名を入力します。Macintoshの「セレクト」や「サーバへ接続...」やWindowsの「マイネットワーク」に表示される名称です。 使用できる文字は、半角英数字で最大16文字まで、全角で3～5文字までです。
ボリューム	共有フォルダを作成するボリュームを選択します。
パス	サーバ上のボリュームに作成されるパスを入力します。 通常はフォルダー名と同じ名前に設定します。 使用可能な文字列は、半角で最大96文字までです。
フォルダの説明	フォルダの説明や備考などを入力します。Windowsの「マイネットワーク」で詳細表示した際に表示されます。 使用可能な文字列は半角で最大80文字まで、全角で最大24文字までです。この項目は入力しなくても構いません。
標準アクセス権	作成する共有フォルダの基本的なアクセス権を設定します。「書込可能」「読込可能」から選択します。アクセス権の設定で詳細な設定を行うこともできます(P108 ACL設定参照)。
サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・SMBはWindowsでファイル共有を実現するプロトコルです。SMBサービスを開始するかどうかを設定します。 ・AFPはMacintoshでファイル共有を実現するプロトコルです。AFPサービスを開始するかどうかを設定します。 ・NFSはUNIXで利用されるファイル共有システムです。NFSサービスを開始するかどうかを設定します。



共有フォルダは第1階層のフォルダのみ作成できます。

ここで作成した共有フォルダの下にフォルダを作成したい場合は、サーバに接続し、作成した共有フォルダの中にアクセスしてから、各OSメニューの「新規フォルダの作成」で新しいフォルダを作成してください。

- 2** 設定が完了したら、【OK】をクリックします。

フォルダの削除

- 1 フォルダリストから削除するフォルダを選び、【削除】をクリックします。
- 2 確認画面が表示されます。削除してよければ【OK】をクリックします。

フォルダの変更

- 1 フォルダリストから変更するフォルダを選び、【変更】をクリックすると、以下のような画面が表示されます。表を参照のうえ設定してください。

変更	
フォルダー名	<input type="text" value="soumu"/>
フォルダの説明	<input type="text"/>
サービス	<input checked="" type="checkbox"/> SMB <input checked="" type="checkbox"/> AFP <input type="checkbox"/> NFS

フォルダー名	変更するフォルダー名を入力します。Macintosh の「セクタ」 「サーバへ接続 ...」や Windows の「マイネットワーク」に表示される名称です。 使用できる文字は、半角英数字で最大 16 文字まで、全角で 3～5 文字までです。
フォルダの説明	フォルダの説明や備考などを入力します。Windows の「マイネットワーク」で詳細表示した際に表示されます。 使用可能な文字列は半角で最大 80 文字まで、全角で最大 24 文字までです。この項目は入力しなくても構いません。
サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・SMB は Windows でファイル共有を実現するプロトコルです。SMB サービスを開始するかどうかを設定します。 ・AFP は Macintosh でファイル共有を実現するプロトコルです。AFP サービスを開始するかどうかを設定します。 ・NFS は UNIX で利用されるファイル共有システムです。NFS サービスを開始するかどうかを設定します。

- 2 設定が完了したら、【登録 / 更新】をクリックします。

バックアップ設定

バックアップ設定では N-RAID 内の共有フォルダのバックアップを行うための設定をします。N-RAID1 台での共有フォルダのバックアップや、2 台の N-RAID での共有フォルダのバックアップをすることができます。

2 台の N-RAID でバックアップすることでよりデータの安全性を保つことができます。バックアップ設定は共有フォルダ単位でおこないます。

- 1** YFS Controller Pro II を呼び出します。(P52 を参照)
- 2** [ストレージ設定] メニューの中の [バックアップ設定] を選択します。
- 3** [サーバ] [クライアント] [スケジューラ] [バックアップログ] の中から設定したいものをクリックします。項目の内容は下記の表を参照してください。
[サーバ] を選択した場合は次ページへ、[クライアント] を選択した場合は P78 へ、[スケジューラ] を選択した場合は P80 へ、[バックアップログ] を選択した場合は P86 をご覧ください。

サーバ	サーバを選択すると現在ログインしている N-RAID の共有フォルダが表示されます。
クライアント	今すぐ共有フォルダのバックアップを行いたい場合は、クライアントを選択します。N-RAID の共有フォルダに対して、どのフォルダからどのフォルダへバックアップさせるかの設定を行います。
スケジューラ	バックアップを行うためのスケジュールを、時間や周期で複数登録することができます。複数のバックアップの設定を行う場合や、時間や周期を設定する場合に、スケジューラを選択します。
バックアップログ	バックアップ設定を実行した場合のログが表示されます。



リモート側サーバの「ステータス」が「設定しない」になっているとリモートサーバを選択することができません。

バックアップを実行する場合は、ローカル側サーバおよびリモート側サーバ共、必ず [サーバ] メニューの「ステータス」を「設定する」にしてください。



●バックアップ機能を行う上でのユーザー ID 及びグループ ID について

バックアップ設定でバックアップを行った時のファイル/フォルダのオーナー（所有者）はバックアップ元のユーザー ID 及びグループ ID と同じ ID になります。

バックアップ先と同じユーザー ID 及びグループ ID が存在した場合、バックアップ元のユーザー名・グループ名はバックアップ先のユーザー名・グループ名に変更されます。ユーザー名・グループ名を変更したくない場合は、バックアップ先のユーザー・グループをバックアップ元とは別のユーザー ID ・グループ ID で登録してください。



バックアップ設定で共有フォルダをバックアップする場合、初めてバックアップする時にはすべてのデータをバックアップするため時間がかかりますが、2 回目以降は更新されたファイルのみバックアップされます。

サーバを選択した場合

バックアップ設定を行うかどうかの設定をします。

1

バックアップ設定を実行したい場合は【ステータス:】の「設定する」をクリックします。



【ステータス:】の「設定しない」をクリックすると、[クライアント] や [スケジューラ] でコピーの設定を行っていてもバックアップを実行できません。バックアップ設定を実行したい場合は、必ず【ステータス:】を「設定する」にしてください。

バックアップ設定			
<input checked="" type="radio"/> サーバ <input type="radio"/> クライアント <input type="radio"/> スケジューラ <input type="radio"/> バックアップログ			
ステータス: <input checked="" type="radio"/> 設定する <input type="radio"/> 設定しない			
名前	パス	コメント	読み込みのみ
share	/shares/Volume1/share		<input type="checkbox"/>
soumu	/shares/Volume1/soumu		<input type="checkbox"/>
更新		キャンセル	

ステータス	バックアップ設定を「設定する」か「設定しない」かのどちらかを選択します。この部分を「設定しない」にすると、[クライアント] や [スケジューラ] で設定を行っていても、バックアップ背邸の機能は有効になりません。初期設定は「設定しない」になっています。
名前	現在設定を行っている側のN-RAIDの共有フォルダ名です。
パス	サーバー上のボリュームに作成されたパスを表示します。
コメント	フォルダの作成時および、変更時に入力したフォルダの説明を表示します。
読み込みのみ	この部分にチェックをつけると、この共有フォルダに対してバックアップを行う際に書き込みできなくなります。これにより誤ったバックアップデータのコピーを防ぎます。

2

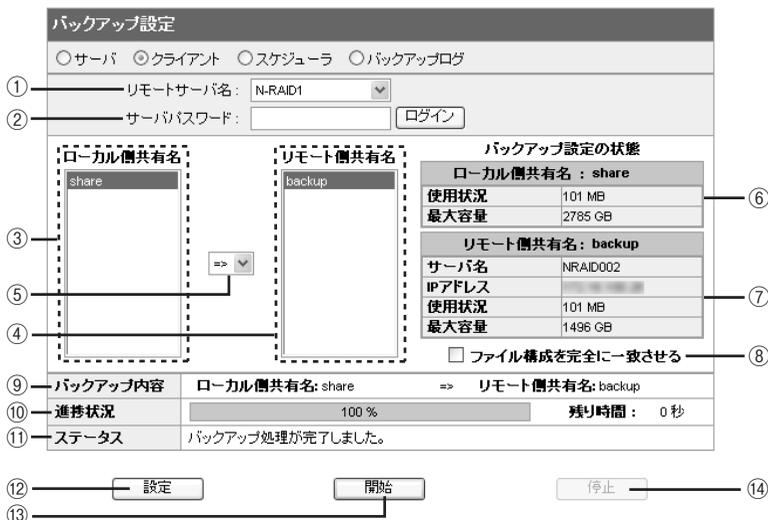
設定が完了したら【更新】をクリックします。



バックアップ設定で共有フォルダをバックアップする場合、初めてバックアップする時にはすべてのデータをバックアップするため時間がかかりますが、2回目以降は更新されたファイルのみバックアップされます。

クライアントを選択した場合

今すぐフォルダのバックアップを行いたい場合は、クライアントを選択します。N-RAID の共有フォルダに対して、どのフォルダからどのフォルダへバックアップするかの設定を行います。バックアップを実行する場合はローカル側サーバおよびリモート側サーバ共、必ず [サーバ] メニューの「ステータス」を「設定する」にしてください。



1 ① [リモートサーバ名] から、バックアップさせたいサーバをプルダウンメニューから選択します。

2 ① [リモートサーバ名] で選択したサーバの ② [サーバパスワード] を入力し、「ログイン」をクリックします。「ログイン」をクリックすると、④ の [リモート側共有名] に共有フォルダの一覧が表示されます。

3 共有したいフォルダを、③ [ローカル側共有名]、④ [リモート側共有名] からそれぞれ選択し、⑤ でどちら側からどちらバックアップを行うのか、[<=>] か [<=] のどちらかを選択します。

4 バックアップ元とバックアップ先の内容が常に全く同じ内容にしたい場合は、⑧ [ファイル構成を完全に一致させる] にチェックを入れます。

5 ⑫ [設定] をクリックすると ⑨ [バックアップ内容] に現在設定された内容が表示されます。

6 バックアップを実行する時は ⑬ [開始] をクリックします。
⑩ [進捗状況]、⑪ [ステータス] に現在の進捗状況が表示されます。

①	リモートサーバ名	現在バックアップできる N-RAID のサーバ名のリストです。バックアップしたいサーバをプルダウンメニューから選択します。リモート側サーバの「ステータス」が「設定しない」になっているとリモートサーバを選択することができません。バックアップを実行する場合は、ローカル側サーバおよびリモート側サーバ共、必ず「ステータス」を「設定する」にしてください。
②	サーバパスワード	[サーバ名] で選択したサーバのログインパスワードを入力し「ログイン」をクリックします。「ログイン」をクリックすると、④[リモート側共有名] に共有フォルダの一覧が表示されます。
③	ローカル側共有名	現在設定を行っている側の N-RAID の共有フォルダが表示されます。
④	リモート側共有名	①のサーバ名で選択し、ログインした N-RAID の中の共有フォルダが表示されます。
⑤	[=>] [<=]	③[ローカル側共有名] から④[リモート側共有名] へバックアップする場合は[=>]を、④[リモート側共有名]から③[ローカル側共有名]へバックアップする場合は[<=]を選択します。
	ローカル側共有名	③の [ローカル側共有名] の一覧の中から選択したフォルダ名が表示されます。
⑥	使用状況	現在ローカル側で選択している共有フォルダ内のデータの使用量が表示されます。
	最大容量	現在ローカル側で選択している共有フォルダの最大容量が表示されます。
	リモート側共有名	④の [リモート側共有名] の一覧の中から選択したフォルダ名が表示されます。
	サーバ名	[リモート側共有名] から選択したフォルダを含むサーバの名前を表示します。
⑦	IPアドレス	[リモート側共有名] から選択したフォルダを含むサーバの IP アドレスを表示します。
	使用状況	現在リモート側で選択している共有フォルダ内のデータの使用量が表示されます。
	最大容量	現在リモート側で選択している共有フォルダの最大容量が表示されます。
⑧	ファイル構成を完全に一致させる	この欄にチェックを入れるとバックアップ元とバックアップ先が常に全く同じ内容になります。
⑨	バックアップ内容	⑫「設定」をクリックするとこの欄に設定内容が表示されます。
⑩	進捗状況	⑬「開始」をクリックするとこの欄に状況が表示されます。
⑪	ステータス	⑬「開始」をクリックするとこの欄に現在どういう処理を行っているのかを表示します。
⑫	設定	③[ローカル側共有名]、④[リモート側共有名] をそれぞれ選択し、⑤でどちら側からどちら側にバックアップするのかを選択したら、⑩「設定」をクリックします。「設定」をクリックすると⑨[バックアップ内容]に設定内容が表示されます。
⑬	開始	⑨[バックアップ] 内容を実行する時に [開始] をクリックすると処理が開始されます。
⑭	停止	処理の実行中に途中で停止したい場合に [停止] をクリックします。



バックアップ設定は双方の N-RAID のファームウェアバージョンが 1.0F 以降でなければ正常に動作しません。4000Z シリーズとの組み合わせについては、弊社 Web ページ（トラブルシューティング）をご覧ください。



バックアップ設定で共有フォルダをバックアップする場合、初めてバックアップする時にはすべてのデータをバックアップするため時間がかかりますが、2 回目以降は更新されたファイルのみバックアップされます。



バックアップ設定の「クライアント」では 1 つしか設定することができません。複数の設定をする場合や、何度も同じ設定を繰り返し行う場合は、「スケジューラ」で設定を行ってください。

スケジューラを選択した場合

複数の時間や周期の設定を登録する場合、[スケジューラ] から行うことができます。複数の設定を登録する場合や、何度も同じ設定を繰り返し行う場合、また、時間や周期を設定する場合にスケジューラを選択します。



バックアップ設定は双方の N-RAID のファームウェアバージョンが 1.0F 以降でなければ正常に動作しません。4000Z シリーズとの組み合わせについては、弊社 Web ページ（トラブルシューティング）をご覧ください。



リモート側サーバの「ステータス」が「設定しない」になっているとリモートサーバを選択することができません。

バックアップ設定を実行する場合は、ローカル側サーバおよびリモート側サーバ共、必ず [サーバ] メニューの「ステータス」を「設定する」にしてください。



バックアップ設定で共有フォルダをバックアップする場合、初めてバックアップする時にはすべてのデータをバックアップするため時間がかかりますが、2 回目以降は更新されたファイルのみバックアップされます。

バックアップ設定

サーバ クライアント スケジューラ バックアップログ

① プロファイル名:

② コメント: 追加 ③

選択	詳細
④ スケジュール1	<p>プロファイル名: スケジュール1</p> <p>コメント: 毎週のバックアップ 変更</p> <p>ローカル側共有名: share</p> <p>サーバ名: NRAID2</p> <p>IPアドレス: <input type="text"/></p> <p>リモート側共有名: backup</p> <p>バックアップ方向: ローカルからリモートへ</p> <p>バックアップ方法: <input checked="" type="checkbox"/>ファイル構成を完全に一致させる</p> <p>周期: 毎週</p> <p>無効: <input type="checkbox"/></p>

⑥ ⑦

⑥ 削除 修正 ⑦

①	プロフィール名	スケジュールの名前を入力します。
②	コメント	スケジュールの説明などを入力します。
③	追加	プロフィールを追加する時にクリックします。
④	選択	現在登録しているプロフィール名が表示されます。選択すると右側の[詳細]にプロフィールの内容が表示されます。
	プロフィール名	④で選択したプロフィール名が表示されます。
	コメント	④で選択したコメントの内容が表示されます。コメントの内容を変更する場合は、入力後「変更」をクリックします。
	ローカル側共有名	ローカル側の共有名が表示されます。
	サーバ名	リモート側の N-RAID のサーバ名を表示します。
	IPアドレス	リモート側サーバの IP アドレスを表示します。
	リモート側共有名	リモート側の共有名が表示されます。
	バックアップ方向	どちら側からどちら側にコピーするのかが表示します。
	バックアップ方法	バックアップ元のファイルやフォルダが削除された時に、バックアップ先のファイルやフォルダも削除したい場合は、[ファイル構成を完全に一致させる]にチェックを入れます。
	周期	④で選択したスケジュールの周期が表示されます。
無効	④で選択したスケジュールを無効にする場合にチェックを入れます。	
⑥	削除	④で選択したスケジュールを削除する時にクリックします。
⑦	修正	④で選択したスケジュールを修正する時にクリックします。

- 1 「プロフィール名」を入力します。「コメント」にスケジュールの説明などを入力し、「追加」をクリックします。「プロフィールが追加されました」というダイアログボックスが表示されますので、「OK」をクリックします。

バックアップ設定

サーバ
 クライアント
 スケジュール
 バックアップログ

プロフィール名
(追加)

コメント:

選択 詳細

スケジュール1	
プロフィール名: スケジュール1	
コメント	毎週のバックアップ <input type="button" value="変更"/>
ローカル側共有名	share
サーバ名	NRAID2

- 2** 追加されたプロファイル名を選択します。
最初に [バックアップ方法] を設定します。
バックアップ先のファイルを消たくない場合は、[ファイル構成を完全に一致させる] からチェックをはずします。
設定できたら **修正** をクリックします。

バックアップ設定

サーバ クライアント スケジューラ バックアップログ

プロフィール名:

コメント: **追加**

選択 詳細

スケジュール1

プロフィール名: スケジュール1

コメント 毎週のバックアップ **変更**

ローカル側共有名	
サーバ名	
IPアドレス	
リモート側共有名	
バックアップ方向	<未選択>
バックアップ方法	<input checked="" type="checkbox"/> ファイル構成を完全に一致させる
周期	<未設定>
無効	<input type="checkbox"/>

削除 **修正**



バックアップ元のファイルやフォルダが削除された時に、バックアップ先のファイルやフォルダも削除するなど、バックアップ元とバックアップ先を常に同じ状態に保ちたい場合は、「バックアップ方法」の「ファイル構成を完全に一致させる」にチェックを入れます。

- 3** 「ステップ1：ローカル側共有設定」の画面が表示されます。
[ローカル側共有名] からコピーしたい共有フォルダを選択します。
[ステータス] に、選択したローカル側共有名と使用状況、最大容量が表示されたのを確認し、**追加** をクリックします。

バックアップ設定

サーバ クライアント スケジューラ バックアップログ

ステップ1:ローカル側共有設定 プロフィール:スケジュール1

ローカル側共有名	ステータス
share	ローカル側共有名: share
soumu	使用状況 101 MB
	最大容量 2785 GB

戻る **次へ**

- 4** 「ステップ2：リモート側共有設定」の画面が表示されます。
 [リモートサーバ名] を選択し、選択したサーバの [サーバパスワード] を入力し「ログイン」をクリックします。

バックアップ設定

サーバ クライアント スケジューラ バックアップログ

ステップ2:リモート側共有設定 プロファイル:スケジュール1

リモートサーバ名: NRAID2

サーバパスワード: [パスワード入力欄] [ログイン]

リモート側共有名 ステータス

backup	リモート側共有名: backup
test	

- 5** [リモート側共有名] からバックアップしたい共有フォルダを選択します。
 [ステータス] に選択したリモート側共有名と IP アドレス、使用状況、最大容量が表示されたのを確認し、[次へ] をクリックします。

バックアップ設定

サーバ クライアント スケジューラ バックアップログ

ステップ2:リモート側共有設定 プロファイル:スケジュール1

リモートサーバ名: NRAID2

サーバパスワード: [パスワード入力欄] [ログイン]

リモート側共有名 ステータス

backup	リモート側共有名: backup
test	

サーバ名	NRAID2
IPアドレス	[IPアドレス]
使用状況	100 MB
最大容量	701 GB

戻る 次へ

- 6** 「ステップ3：バックアップ方向の設定」の画面が表示されます。バックアップ方向を設定します。どちら側からどちら側にコピーを行うのかを、[バックアップ方向] から「ローカルからリモートへ」又は、「リモートからローカルへ」のどちらかを選択します。選択できたら、**次へ** をクリックします。

バックアップ設定

サーバ クライアント スケジューラ バックアップログ

ステップ3: バックアップ方向の設定 プロフィール: スケジュール1

ステータス

ローカル側共有設定	
ローカル側共有名	share
リモート側共有設定	
サーバ名	NR4ID2
IPアドレス	
リモート側共有名	backup

バックアップ方向
ローカルからリモートへ

戻る **次へ**

- 7** 「ステップ4：スケジュール設定」の画面が表示されます。スケジュールの周期を設定します。項目の内容を参照し、周期を設定します。設定できたら **完了** をクリックします。

バックアップ設定

サーバ クライアント スケジューラ バックアップログ

ステップ4: スケジュール設定 プロフィール: スケジュール1

周期

毎月
 毎週
 日周期
 時間周期
 1回だけ実行

毎週 土 曜日

開始時刻: 23:00

戻る **完了**

毎月	<ul style="list-style-type: none"> 毎月__日…毎月何日に実行するかを1～31日の間から選択します。 開始時刻…毎月何時に開始するかを 0:00～23:00 の間から選択します。
毎週	<ul style="list-style-type: none"> 毎週__曜日…毎週何曜日に実行するかを日～土の間から選択します。 開始時刻…毎週何時に開始するかを 0:00～23:00 の間から選択します。
日周期	<ul style="list-style-type: none"> 何日ごとに実行するかを1～31日の間から選択します。 開始時刻…何時に開始するかを 0:00～23:00 の間から選択します。
時間周期	<ul style="list-style-type: none"> 何時間ごとに実行するかを1～12時間の間から選択します。
1回だけ実行	<ul style="list-style-type: none"> 開始日…何年何月何日を選択します。 開始時刻…毎日何時に開始するかを 0:00～23:00 の間から選択します。
戻る	1つ前の画面に戻ります。
完了	設定を保存しプロフィールを作成します。

- 8** 設定したプロファイルの内容が表示されます。
確認後、【設定】をクリックします。

バックアップ設定	
<input type="radio"/> サーバ <input type="radio"/> クライアント <input checked="" type="radio"/> スケジュール <input type="radio"/> バックアップログ	
完了	プロフィール: スケジュール1
プロフィール名: スケジュール1	
コメント	毎週のバックアップ
ローカル側共有名	share
サーバ名	NRAID2
IPアドレス	
リモート側共有名	backup
バックアップ方向	ローカルからリモートへ
バックアップ方法	ファイル構成を完全に一致させる
周期	毎週
無効	<input type="checkbox"/>

設定

- 9** 最初の画面に戻ります。
選択画面でプロファイルを選択するとそれぞれの詳細が表示されます。
スケジュールを無効にする場合、詳細画面の【無効】にチェックを入れます。
バックアップ方法を変更する場合、【ファイル構成を完全に一致させる】のチェックをはずします。

nasroot

バックアップ設定																					
<input type="radio"/> サーバ <input type="radio"/> クライアント <input checked="" type="radio"/> スケジュール <input type="radio"/> バックアップログ																					
プロフィール名:	<input type="text"/>																				
コメント:	<input type="text"/> 追加																				
選択	詳細																				
スケジュール1	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">プロフィール名: スケジュール1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コメント</td> <td>毎週のバックアップ 変更</td> </tr> <tr> <td>ローカル側共有名</td> <td>share</td> </tr> <tr> <td>サーバ名</td> <td>NRAID2</td> </tr> <tr> <td>IPアドレス</td> <td></td> </tr> <tr> <td>リモート側共有名</td> <td>backup</td> </tr> <tr> <td>バックアップ方向</td> <td>ローカルからリモートへ</td> </tr> <tr> <td>バックアップ方法</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> ファイル構成を完全に一致させる</td> </tr> <tr> <td>周期</td> <td>毎週</td> </tr> <tr> <td>無効</td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> </tbody> </table>	プロフィール名: スケジュール1		コメント	毎週のバックアップ 変更	ローカル側共有名	share	サーバ名	NRAID2	IPアドレス		リモート側共有名	backup	バックアップ方向	ローカルからリモートへ	バックアップ方法	<input checked="" type="checkbox"/> ファイル構成を完全に一致させる	周期	毎週	無効	<input type="checkbox"/>
プロフィール名: スケジュール1																					
コメント	毎週のバックアップ 変更																				
ローカル側共有名	share																				
サーバ名	NRAID2																				
IPアドレス																					
リモート側共有名	backup																				
バックアップ方向	ローカルからリモートへ																				
バックアップ方法	<input checked="" type="checkbox"/> ファイル構成を完全に一致させる																				
周期	毎週																				
無効	<input type="checkbox"/>																				

削除

修正

バックアップログ

「クライアント」や「スケジューラ」からバックアップ設定を実行した日付や時刻、こういったコピーを行ったのかをログとして記録しています。

バックアップ設定							
<input type="radio"/> サーバ <input type="radio"/> クライアント <input type="radio"/> スケジューラ <input checked="" type="radio"/> バックアップログ							
バックアップログを消去							
日	時刻	プロファイル	ローカル側共有名	バックアップ方向	リモートサーバ	リモート側共有名	ステータス
2007/09/06	18:53:26	---	share	=>	NRAID002345	backup	完了
2007/09/06	18:53:16	---	share	=>	NRAID002345	backup	開始
2007/09/06	18:25:43	---	share	=>	NRAID002345	backup	完了
2007/09/06	18:25:11	---	share	=>	NRAID002345	backup	開始
2007/02/07	17:15:00	スケジューラ1	share	=>	NRAID2	backup	完了
2007/02/07	17:14:00	スケジューラ	share	=>	NRAID2	backup	完了

バックアップログを消去	バックアップのログを消去する時にクリックします。
日	バックアップの開始や完了、エラーが発生した場合の日付が表示されます。
時刻	バックアップの開始や完了、エラーが発生した場合の時刻が表示されます。
プロファイル	「スケジューラ」からバックアップを行った時に、実行したプロファイル名が表示されます。「クライアント」からバックアップを行った時は「-」と表示されます。
ローカル側共有名	ローカル側から選択された共有フォルダ名が表示されます。
バックアップ方向	[ローカル側共有名]から[リモート側共有名]へコピーした場合は[=>]を、[リモート側共有名]から[ローカル側共有名]へコピーした場合は[<=]が表示されます。
リモートサーバ	リモート側に選択した共有フォルダを含むサーバの名前を表示します。
リモート側共有名	リモート側に選択した共有フォルダ名が表示されます。
ステータス	バックアップの開始や完了などバックアップの状況が表示されます。エラーの場合は赤字で表示されます。



バックアップを実行したログは【システム情報】→【ログ】には残りません。バックアップ設定のログは【ストレージ設定】→【バックアップ設定】→【バックアップログ】で確認してください。



バックアップログで赤字のエラーが出た時は、バックアップ設定を見直して実行しなおしてください。それでもエラーが出る場合は、バックアップ設定を行うそれぞれのサーバーを再起動して再度バックアップ設定を行ってください。

同期設定

同期設定は IP アドレスが設定された PC / サーバ / デバイスの中の指定したデータフォルダを N-RAID へ同期させる機能です。1 つのスケジュール項目を『ジョブ』と定義し、複数のジョブを実行したり、実行予定日時を設定することができます。



全ての PC やサーバに対して動作確認が行われているわけではありません。対応確認済みの PC / サーバ / デバイスについては、弊社ホームページ (<http://www.yano-el.co.jp>) もしくはメールなどをご確認ください。



お使いになる N-RAID のファームウェアのバージョンによって、同期設定が正常に動作しない、表示されないなどの場合があります。N-RAID のファームウェアのバージョンが最新であることを確認してください。



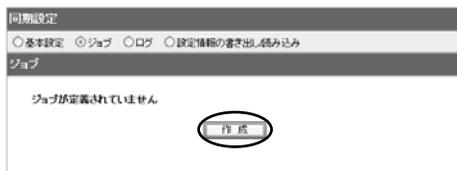
同期設定でバックアップされたファイル / フォルダは N-RAID の「Remote Backup」フォルダに保存されます。「Remote Backup」は、初期設定では nasroot のみがログインできるように設定されています。

ジョブ

1 YFS Controller Pro を呼び出します。(P52 を参照)

2 【ストレージ設定】メニューの中の【同期設定】を選択します。

3 初めて選択した場合はジョブは 1 つも存在しないため、“ジョブが定義されていません” というメッセージが表示されますので、【作成】をクリックします。



4 次ページのような画面が表示されます。次ページの表を参照のうえ【ジョブ】に必要な情報を入力します。



項目名から【オリジナルサーバ】や【ディレクトリ】をクリックした際、ネットワークの接続状況により表示に時間がかかる場合があります。表示されない場合は、再度クリックし直すか、しばらく待ってからクリックしてください。



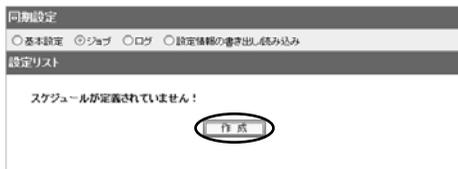
バックアップ元になる PC が Macintosh の場合、【オリジナルサーバ】の「Macintosh」の項目に必ずチェックをつけてください。Macintosh 以外に接続する場合はチェックをはずしてください。接続するオリジナルサーバに対してチェックの有無が正しく設定されていない場合、同期設定においてファイルの保存日 / 変更日にずれが発生します。

同期設定	
<input type="radio"/> 基本設定 <input checked="" type="radio"/> ジョブ <input type="radio"/> ログ <input type="radio"/> 設定情報の書き出し読み込み	
作成者	nasroot
ジョブ名	<input type="text"/>
ネットワークタイプ	AFP <input type="button" value="▼"/>
オリジナルサーバ	<input type="text"/> <input checked="" type="checkbox"/> Macintosh
ユーザ認証	<input type="radio"/> ゲスト <input checked="" type="radio"/> 通常ユーザ
ユーザ名	<input type="text"/>
パスワード	<input type="text"/>
ディレクトリ	<input type="text"/>
オプション	<input type="checkbox"/> オリジナルサーバのファイルフォルダを消去しても本サーバのファイルフォルダを消さない。
<input type="button" value="追加"/> <input type="button" value="リセット"/> <input type="button" value="戻る"/>	

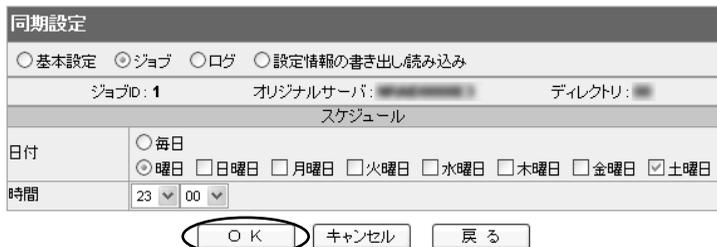
作成者	N-RAIDにログインしているユーザ名が表示されます。初期設定ではnasrootのみがログインできるように設定されています。作成者の変更を行うことはできません。
ジョブ名	スケジュールの名前を半角英数字で入力します。バックアップ先のフォルダ名に反映されます。
ネットワークタイプ	バックアップの通信形式を AFP、SMB から選択します。AFP を選択すると、【オリジナルサーバ】の欄に「Macintosh」が表示されます。
オリジナルサーバ	バックアップ元になるPC/サーバのIPアドレスを選択します。【オリジナルサーバ】をクリックすることにより、サーバー一覧の確認画面から選択することもできます。【ネットワークタイプ】欄で「AFP」を選択した場合、「Macintosh」の項目が表示されます。バックアップ元になる PC が Macintosh の時に、「Macintosh」にチェックを入れます。Macintosh 以外に接続する場合はチェックをはずしてください。接続するオリジナルサーバに対してチェックの有無が正しく設定されていない場合、同期設定においてファイルの保存日/変更日にずれが発生します。
ユーザ認証	【オリジナルサーバ】で設定した PC/サーバへログインするための認証が必要な場合は「通常ユーザ」、ゲストでログインできる場合は「ゲスト」を選択します。
以下の設定はユーザ認証に「通常ユーザ」を選択した場合に有効となります。	
ユーザ名	上記ログイン認証が必要な場合のユーザ名を入力します。
パスワード	上記ログイン認証が必要な場合のパスワードを入力します。
ディレクトリ	バックアップ元の共有フォルダの名前を入力します。【ディレクトリ】をクリックすることにより、ディレクトリ一覧の確認画面から選択することもできます。
オプション	バックアップ元とバックアップ先のファイル / フォルダの数や内容を完全に一致させる場合はチェックをつける必要ありません。バックアップ元のファイル / フォルダが削除されてもバックアップ先の同じファイルを削除しない場合はチェックをつけてください。
追加	設定したジョブを追加します。
リセット	設定した項目の内容をリセットします。
戻る	1つ前の画面に戻ります。

5 【追加】をクリックします。”設定が終了しました。引き続きスケジュールを設定してください。”というメッセージが表示されますので、【OK】をクリックします。

6 ”スケジュールが定義されていません！”というメッセージが表示されますので、【作成】をクリックします。

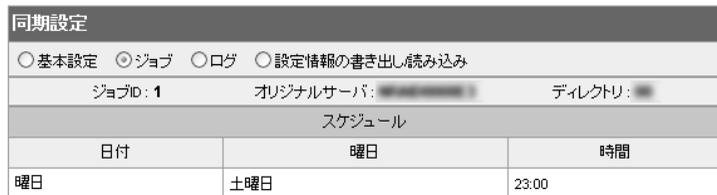


7 スケジュールの周期を設定します。項目の内容を参照し、周期を設定します。設定できたら【OK】をクリックします。



ジョブID	ジョブの番号を表示します。
オリジナルサーバ	接続先のオリジナルサーバのサーバ名または、IPアドレスが表示されます。
ディレクトリ	バックアップをするディレクトリ名が表示されます。
日付	スケジュールを開始する日を選択します。毎日もしくは各曜日から設定します。
時間	スケジュールを開始する時間を選択します。時間の単位は1時間ごと、分の単位は5分ごとに設定できます。

8 設定したスケジュールの内容が表示されます。【戻る】をクリックします。



9 ジョブの一覧画面に戻ります。以上でジョブの作成は完了です。

- ・引き続き新しいジョブを作成する場合は【追加】をクリックします。
- ・既存のジョブ内容を変更する場合は、ジョブを選択し【変更】をクリックします。
- ・既存のジョブを削除する場合は、ジョブを選択し【削除】をクリックします。
- ・既存のジョブのスケジュールの内容を確認する場合は、ジョブを選択し【スケジュール】をクリックします。
- ・スケジュールを待たずに既存のジョブを今すぐ実行する場合は、ジョブを選択し【実行】をクリックします。

ジョブの追加、削除、変更、スケジュールの確認、実行については表を参照してください。

同期設定						
<input type="radio"/> 基本設定 <input checked="" type="radio"/> ジョブ <input type="radio"/> ログ <input type="radio"/> 設定情報の書き出し読み込み						
ジョブ名	作成者	オリジナルサーバ	ディレクトリ	ネットワークタイプ	スケジュール	状態
jobback	nasroot			afp	1	

追加

削除

変更

スケジュール

実行

ジョブ名	ジョブ作成時につけた名前が表示されます。
作成者	作成者が表示されます。
オリジナルサーバ	接続先のオリジナルサーバのサーバ名または、IP アドレスが表示されます。
ディレクトリ	バックアップをするディレクトリ名が表示されます。
ネットワークタイプ	バックアップの通信形式が表示されます。
スケジュール	スケジュール番号が表示されます。
状態	ジョブの実行時に進捗状況が表示されます。
追加	新しいジョブを作成します。
削除	作成済みのジョブを削除します。ジョブ一覧から削除するジョブを選択し、【削除】をクリックします。
変更	既存のジョブ内容を変更します。ジョブ一覧から変更したいジョブを選択し、【変更】をクリックします。
スケジュール	スケジュール内容を確認したいジョブを選択し、【スケジュール】をクリックします。現在のスケジュールの内容が表示されます。
実行	スケジュールを待たずに既存のジョブを今すぐ実行する場合は、ジョブを選択し、【実行】をクリックします。



同期設定でバックアップされたファイル / フォルダは N-RAID の「Remote Backup」フォルダに保存されます。「Remote Backup」は、初期設定では nasroot のみがログインできるように設定されています。

基本設定

同期設定	
<input checked="" type="radio"/> 基本設定 <input type="radio"/> ジョブ <input type="radio"/> ログ <input type="radio"/> 設定情報の書き出し読み込み	
サーバリストの更新間隔:	30分 <input type="button" value="今すぐ更新"/>
コードページ:	<input type="radio"/> 変更する <input checked="" type="radio"/> 変更しない
ログレベル:	(推奨)基本的な情報 <input type="button" value="▼"/>
<input type="button" value="登録 / 更新"/>	

サーバリストの更新間隔	30分～6時間の間隔から選択できます。すぐに更新したい場合は【今すぐ更新】をクリックします。
コードページ	コードページを変更したい場合は「変更する」を選択します。
ログレベル	今後、記録される同期設定の<ログ>に表示される情報のレベルを変更できます。過去のログは変更できません。

ログ

同期設定のジョブが正常に実行されたかどうか、記録を残します。ログリストから条件別にログを検索してピックアップすることも可能です。次ページの表を参照してください。

nasroot

同期設定		
<input type="radio"/> 基本設定 <input type="radio"/> ジョブ <input checked="" type="radio"/> ログ <input type="radio"/> 設定情報の書き出し読み込み		
		<input type="button" value="ダウンロード"/> <input type="button" value="消去"/>
期間	作成者/ジョブ名	メッセージ
2007/10/08 10:19	nasroot.1	(afp) Start updating newer files.
2007/10/08 10:21	nasroot.1	(afp) End updating newer files
2007/10/08 10:21	nasroot.1	(afp) Total files/dirs=55 (Files=54, Dirs=1, Error=0)
2007/10/08 10:21	nasroot.1	(afp) There files/dirs has been successfully updated Files=54, folders=1, Err
2007/10/08 10:38	nasroot.1	(afp) Start updating newer files.
2007/10/08 10:39	nasroot.1	(afp) End updating newer files
2007/10/08 10:39	nasroot.1	(afp) Total files/dirs=70 (Files=69, Dirs=1, Error=0)
2007/10/08 10:39	nasroot.1	(afp) There files/dirs has been successfully updated Files=15, folders=0, Err
2007/10/08 11:19	nasroot.1	(afp) Start updating newer files.
2007/10/08 11:22	nasroot.1	(afp) End updating newer files

期間: 2007年10月08日 10:19 から 2007年10月08日 17:57 まで
 ジョブ名: * 作成者: *

ダウンロード	検索された期間のログ内容をダウンロードします。詳しくは次項目の『ログのダウンロード』を参照してください。
消去	ジョブのログを消去する時にクリックします。
期間	ジョブを実行した日付、時間が表示されます。
作成者、ジョブID	作成者が表示されます。ジョブIDが赤色で表示されます。
メッセージ	ジョブを行った作業内容が表示されます。
以下の内容はログリストに表示する期間を検索する際に設定します。	
期間	検索する日付を設定します。
ジョブID	何番のジョブIDをログリストに表示させるかを選択します。
作成者	どの作成者をログリストに表示させるかを選択します。
検索	検索を実行する時にクリックします。

■ ログのダウンロード

検索されたログリストに表示されているジョブのログをダウンロードします。

- 1 ダウンロードしたい期間を検索し、ログリストに表示します。
- 2 【ダウンロード】をクリックすると、YFS Controller Proのサーバーログインの画面が表示されます。ログイン名とパスワードを入力します。
- 3 ご使用のWebブラウザによっては、セキュリティ保護のため以下の画面が出る場合があります。その場合は右クリックのサブメニューから、ファイルのダウンロードを選択します。

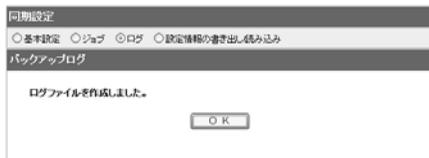


- 4 ファイルを保存する場所を指定し、ファイルのダウンロードのダイアログが表示されますので、確認後【保存】をクリックします。



ファイル名 : bsync_log_nasroot.bin

- 5** 「ログファイルを作成しました」というメッセージが表示されます。
【OK】をクリックすると、ログリスト画面に戻ります。



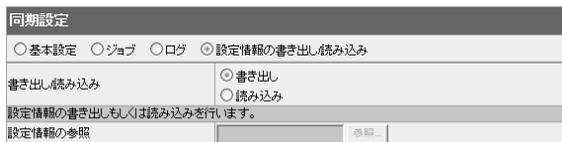
設定情報の書き出し / 読み込み

ジョブとスケジュールの設定内容の書き出し（バックアップ） / 読み込み（リストア）を行います。

■ 書き出し

ジョブとスケジュールの設定内容の書き出し（バックアップ）を行います。

- 1** 書き出しを選択して【OK】をクリックすると、YFS Controller Proのサーバーログインの画面が表示されます。ログイン名とパスワードを入力します。



- 2** ご使用の Web ブラウザによっては、セキュリティ保護のため以下の画面が出る場合があります。その場合は右クリックのサブメニューから、ファイルのダウンロードを選択します。



- 3** ファイルを保存する場所を指定し、ファイルのダウンロードのダイアログが表示されますので、確認後【保存】をクリックします。



ファイル名 : bsync_conf.bin

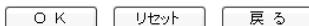
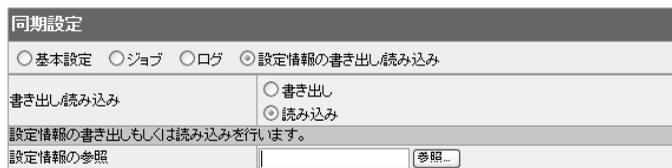
- 4** 「ジョブスケジュールのバックアップファイルが作成されました」というメッセージが表示されます。
[OK] をクリックすると、元の画面に戻ります。



■ 読み込み

ジョブとスケジュールの設定内容の読み込み（リストア）を行います。

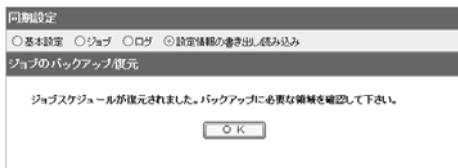
- 1** 「読み込み」を選択します。「設定情報の参照」に、保存されているジョブスケジュールのバックアップファイルを選択します。**[参照]** ボタンをクリックするとローカルファイルをリスト参照して、目的のファイルを選択します。



- 2** **[OK]** をクリックすると、『記録する』というメッセージが表示されますので、**[OK]** をクリックします。



- 3** 「ジョブスケジュールが復元されました。バックアップに必要な領域を確認して下さい。」というメッセージが表示されます。
[OK] をクリックすると、元の画面に戻ります。



5 ユーザー設定

ユーザー設定では「グループ」「ユーザ」「アクセス権（簡易）」「アクセス権（詳細）」「クォータ」に関する設定を行います。

ユーザー設定をクリックすると、現在登録されているユーザの情報が表示されます。

ユーザ						
ユーザー名	ユーザーID	フルネーム	グループ名	ホーム	ドメイン	無効
hanako	101	Hanako Okada	staff	/shares/Volume1/home/hanako	ローカル	<input type="checkbox"/>
taro	100	Taro Yamada	staff	/shares/Volume1/home/taro	ローカル	<input type="checkbox"/>

グループ

ユーザが所属するグループを登録します。クライアントマシンからの認証には直接影響しませんが、グループ単位でのアクセス管理（権限設定）ができるので運用が容易になります。

- 1 YFS Controller Pro II を呼び出します。（P52 を参照）
- 2 【ユーザー設定】メニューの中の【グループ】を選択します。
- 3 以下のような画面が表示されます。表を参照のうえ設定してください。

グループ			
グループ名	グループID	所属グループ	ドメイン
staff	101	hanako, taro	ローカル

グループ名	設定したグループを表示します。
グループID	サーバが管理するグループIDを表示します。
所属グループ	グループに所属しているユーザーを表示します。
ドメイン	グループが所属するドメインを表示します。
作成	グループを新規に登録します。詳しくは次ページを参照。
削除	登録済みのグループを削除します。詳しくはP97を参照。
変更	登録済みのグループ設定を変更します。詳しくはP97を参照。

グループの作成

- 1** グループリスト下の【作成】をクリックすると、以下のような画面が表示されます。表を参照のうえ設定してください。

登録	
グループ名	<input type="text"/>
グループID	<input type="text" value="102"/>
選択候補	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> hanako taro </div> <div style="text-align: center;">↓</div>
所属グループ	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> (empty) </div> <div style="text-align: center;">↑</div>

グループ名	グループ名を入力します。使用できる文字列は、半角英数字の16文字までです。
グループID	サーバ内部で管理されるグループIDを設定します。グループIDは101～65535まで登録できます。バックアップ設定を利用する場合はグループIDの登録に注意が必要です。詳しくはP76「バックアップ機能を行う上でのユーザーID及びグループIDについて」を参照してください。
選択候補	登録済みのユーザー名が表示されます。所属させたいユーザー名を選択して↓をクリックします。
所属グループ	グループに所属するユーザー名が表示されます。所属を解除する場合は、ユーザー名を選択して↑をクリックします。



ユーザーが登録されていない場合、グループ名とグループIDのみが表示されます。

- 2** 設定が完了したら、【OK】をクリックします。

グループの削除

- 1 グループリストから削除するグループを選び、【削除】をクリックします。
- 2 確認画面が表示されます。削除してよければ【OK】をクリックします。

グループの変更

- 1 グループリストから変更するグループを選び、【変更】をクリックすると、以下のような画面が表示されます。表を参照のうえ設定してください。

変更	
グループ名	<input type="text" value="staff"/>
グループID	101
所属グループ	<div style="border: 1px solid gray; padding: 2px;"> hanako taro </div> <div style="text-align: center; margin-top: 5px;">↓</div>
選択候補	<div style="text-align: center; margin-bottom: 5px;">↑</div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 2px;"> ogawawa yano </div>
<input type="button" value="登録 / 更新"/> <input type="button" value="キャンセル"/> <input type="button" value="戻る"/>	

グループ名	設定したグループ名を表示します。
グループ ID	サーバーが管理するグループ ID を表示します。
所属グループ	グループに所属するユーザー名が表示されます。所属を解除する場合は、ユーザー名を選択して↓をクリックします。
選択候補	登録済みのユーザー名が表示されます。所属させたいユーザー名を選択して↑をクリックします。

- 2 設定が完了したら、【登録 / 更新】をクリックします。

ユーザ

サーバに接続できるユーザーを新規に登録したり、その登録内容を変更することができます。サーバはクライアントマシンからのアクセスに対し、ここで設定されたユーザー情報を元に認証を行います。



ユーザーの登録には、グループの設定が必要です。出荷時には、ユーザー、グループ共に登録されていませんので、ユーザーを登録する前にグループの登録（P95を参照）が必要です。

- 1 YFS Controller Pro II を呼び出します。（P52 を参照）
- 2 【ユーザー設定】メニューの中の【ユーザ】を選択します。
- 3 以下のような画面が表示されます。表を参照のうえ設定してください。

ユーザ						
ユーザー名	ユーザーID	フルネーム	グループ名	ホーム	ドメイン	無効
hanako	101	Hanako Okada	staff	/shares/Volume1/home/hanako	ローカル	<input type="checkbox"/>
taro	100	Taro Yamada	staff	/shares/Volume1/home/taro	ローカル	<input type="checkbox"/>

作成
削除
変更

ユーザー名	設定したユーザー名を表示します。
ユーザーID	サーバーが管理するユーザー ID を表示します。
フルネーム	設定したユーザーのフルネームを表示します。
グループ名	ユーザーが所属するグループを表示します。
ホーム	ユーザーのホームディレクトリが登録されているパスを表示します。
ドメイン	ユーザーが所属するドメインを表示します。
無効	ユーザーが無効になっている場合にチェックマークがつきます。設定を変更する場合はユーザー設定の変更で行います。
作成	ユーザーを新規に登録します。詳しくは次ページを参照。
削除	登録済みのユーザーを削除します。詳しくは次ページを参照。
変更	登録済みのユーザー設定を変更します。詳しくは P100 を参照。

ユーザーの作成

- 1 ユーザーリスト下の【作成】をクリックすると、以下のような画面が表示されます。表を参照のうえ設定してください。

登録	
ユーザー名	<input type="text" value="taro"/>
フルネーム	<input type="text" value="taro yamada"/>
新パスワード	<input type="password" value="****"/>
パスワード確認	<input type="password" value="****"/>
ユーザーID	<input type="text" value="104"/>
所属グループ	<input type="text" value="staff"/>
ホーム	<input type="text" value="Volume1"/>

ユーザー名	ユーザー名を入力します。使用できる文字は、半角英数字で最大32文字までです。1文字目に「半角スペース」「-」「+」を使用することはできません。また、「半角スペース」と「:、@、＼、/<>&」を含めることはできません。ユーザー名に全角文字を使用した場合、正しく認証されません。Windowsの場合は、OSにログオンする時と同じユーザー名にしてください。
フルネーム	設定するユーザーのフルネームを入力します。使用できる文字は、半角/全角共に最大80文字までです。
新パスワード	パスワードを入力します。使用できる文字は、半角英数字で最大14文字までです。Windowsの場合は、OSにログオンする時と同じパスワードにしてください。
パスワード確認	確認のために再度パスワードを入力します。【新パスワード】に入力したものと照合します。
ユーザーID	サーバ内部で管理されるユーザーIDを設定します。ユーザーIDは100～65535まで登録できます。バックアップ設定を利用する場合はユーザーIDの登録に注意が必要です。詳しくはP76「バックアップ機能を行う上でのユーザーID及びグループIDについて」を参照してください。
所属グループ	ユーザーが所属するグループを選択します。
ホーム	ユーザーのホームディレクトリが作成されるボリュームを選択します。

- 2 設定が完了したら、【OK】をクリックします。

ユーザーの削除

- 1 ユーザーリストから削除するユーザーを選択し、【削除】ボタンをクリックします。
- 2 確認画面が表示されます。削除してよければ、【OK】をクリックします。

ユーザーの変更

- 1** ユーザーリストから変更するユーザーを選び、【変更】をクリックすると、以下のような画面が表示されます。表を参照のうえ設定してください。

ユーザー名	ユーザー名を入力します。使用できる文字は、半角英数字で最大 32 文字までです。1 文字目に「半角スペース」「-」「+」を使用することはできません。また、「半角スペース」と「: , @ " ¥ / < > &」を含めることはできません。ユーザー名に全角文字を使用した場合、正しく認証されません。Windows の場合は、OS にログオンする時と同じユーザー名にしてください。
フルネーム	設定するユーザのフルネームを入力します。使用できる文字は、半角 / 全角共に最大 80 文字までです。
パスワード変更	変更するパスワードを入力します。使用できる文字は、半角英数字で最大 14 文字までです。Windows の場合は、OS にログインする時と同じパスワードにしてください。
パスワード確認	確認のために再度パスワードを入力します。【パスワード変更】に入力したものと照合します。
無効	ユーザーを一時的に無効にする場合「はい」のチェックボックスをクリックします。
グループ名	ユーザーが所属するグループ名が表示されます。所属を解除する場合は、グループ名を選択して▼をクリックします。
選択候補	登録済みのグループ名が表示されます。ユーザを所属させたいグループを選択して▲をクリックします。

- 2** 設定が完了したら、【登録 / 更新】をクリックします。

アクセス権 (簡易)

クライアントマシンからのアクセス権限を共有フォルダ毎に管理します。

Windows/Macintosh からのアクセス権を設定する

- 1 YFS Controller Pro II を呼び出します。(P52 を参照)
- 2 【ユーザー設定】メニューの中の【アクセス権 (簡易)】を選択します。
- 3 以下のような画面が表示されます。表を参照のうえ設定してください。

アクセス権 (簡易)			
共有フォルダ	share ▼		
クライアント	<input type="radio"/> Windows / Macintosh <input type="radio"/> Unix		
ユーザ/グループ	読出可能	書込可能	接続不可
GUEST	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>
steff	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
hanako	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
taro	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>

共有フォルダ	アクセス権を設定するフォルダを選択します。
クライアント	クライアントの種類「Windows/Macintosh」または、「Unix」のどちらかを選択します。 選択する種類によって以降の設定内容が変わります。 ・ Windows / Macintosh の場合は以下の項目を参照 ・ Unix の場合は次ページを参照
以下の設定はクライアントに「Windows / Macintosh」を選択した場合に有効となります。	
ユーザ/グループ	登録済みのユーザおよびグループが表示されます。
読出可能	ユーザ/グループに対して、読出可能に設定する場合に選択します。
書込可能	ユーザ/グループに対して、書込可能に設定する場合に選択します。
接続不可	ユーザ/グループに対して、接続不可に設定する場合に選択します。



グループに所属するユーザー毎にアクセス権を設定する場合、グループ名の先頭にある「+」をクリックし、グループ内のユーザーを表示させてから、各ユーザー毎の設定を行います。



GUEST ユーザのアクセス権は初期設定で "接続不可" に設定されています。

- 4 設定が完了したら【登録/更新】をクリックします。

UNIX からのアクセス権を設定する

- 1 YFS Controller Pro II を呼び出します。(P52 を参照)
- 2 [ユーザー設定] メニューの中の [アクセス権 (簡易)] を選択します。
- 3 「クライアント」の項目で「Unix」を選択します。



アクセス権が設定されていない場合、「UNIX クライアントからアクセス権が設定されていません。新規に設定してください。」という画面が表示されますので、【作成】をクリックします。P103 の「UNIX からのアクセス権の作成」を参照してください。

- 4 以下のような画面が表示されます。表を参照のうえ設定を行ってください。

アクセス権 (簡易)		
共有フォルダ	share ▼	
クライアント	<input type="radio"/> Windows / Macintosh <input checked="" type="radio"/> Unix	
利用可能ホスト	アクセス権	ルートアクセス
All Hosts	読出可能	いいえ
<input type="button" value="作成"/> <input type="button" value="削除"/> <input type="button" value="変更"/>		

共有フォルダ	アクセス権を設定するフォルダを選択します。
クライアント	クライアントの種類の「Windows/Macintosh」または、「Unix」のどちらかを選択します。 選択する種類によって以降の設定内容が変わります。 ・ Windows / Macintosh の場合は以下の項目を参照 ・ Unix の場合は次ページを参照
以下の設定はクライアントに「Unix」を選択した場合に有効となります。	
利用可能ホスト	利用可能なホストを表示します。
アクセス権	基本的なアクセス権を表示します。
ルートアクセス	ルートアクセスが可能かどうかを表示します。
作成	アクセス権を新規に作成します。詳しくは次ページを参照。
削除	作成済みのアクセス権を削除します。詳しくは次ページを参照。
変更	作成済みのアクセス権を変更します。詳しくは P104 を参照。

■ UNIX からのアクセス権の作成

- 1 アクセス権が設定されていない場合、「UNIX クライアントからアクセス権が設定されていません。新規に設定してください。」という画面が表示されますので、【作成】をクリックすると、以下のような画面が表示されます。表を参照のうえ設定してください。

追加	
エクスポートパス	/shares/Volume1/share
ホスト名	<input checked="" type="radio"/> All Hosts <input type="radio"/> <input type="text"/>
アクセス権	読出可能 ▾
ルートアクセス	いいえ ▾

エクスポートパス	設定を行うフォルダのパスを表示します。
ホスト名	アクセスを許可するホストを指定します。全てのホストに対しアクセスを許可する場合は” All Hosts” を選択します。個別にホストを指定する場合は、DNS で名前解決可能な名称もしくは IP アドレスを入力します。
アクセス権	基本的なアクセス権を表示します。「読出可能」「書込可能」のどちらかを選択します。
ルートアクセス	ルート権限でのアクセスを可能にするかどうかを選択します。

- 2 設定が完了したら【OK】をクリックします。

■ UNIX からのアクセス権の削除

- 1 アクセス権リストから削除するアクセス権を選択し、【削除】をクリックします。
- 2 確認画面が表示されます。削除してよければ【OK】をクリックします。

■ UNIX からのアクセス権の変更

- 1** アクセス権リストから、変更するアクセス権を選び【変更】をクリックすると、以下のような画面が表示されます。表を参照のうえ設定してください。

変更	
エクスポートパス	/shares/Volume1/share
ホスト名	All Hosts
アクセス権	読出可能 ▼
ルートアクセス	いいえ ▼

エクスポートパス	設定を行うフォルダのパスを表示します。
ホスト名	アクセスを許可するホストのホスト名もしくは IP アドレスを表示します。
アクセス権	基本的なアクセス権を表示します。「読出可能」「書込可能」のどちらかを選択します。
ルートアクセス	ルート権限でのアクセスを可能にするかどうかを選択します。

- 2** 設定が完了したら【登録 / 更新】をクリックします。



同期設定を実行すると「Remote Backup」という名前のフォルダが作成されます。同期設定でバックアップされたフォルダに接続したい場合「Remote Backup」フォルダのアクセス権を変更してください。

アクセス権 (詳細)

ボリュームの下に作成されたパス名を表示します。ここではフォルダの削除や、ACL 設定により各フォルダごとのアクセス権の設定を細かく設定することができます。

- 1 YFS Controller Pro II を呼び出します。(P52 を参照)
- 2 【ユーザー設定】メニューの中の【アクセス権 (詳細)】を選択します。
- 3 次ページのような画面が表示されます。

アクセス権 (詳細)			
現在のパス : /shares			
名前	オーナー	サイズ	日付
 Volume1	root	41	2007/07/19 16:39

「名前」の「Volume」のアイコンをクリックすると、ボリュームの下に作成されたパス名が表示されます。項目の内容は次ページを参照してください。
ACL 設定を行う場合は、P108 を参照してください。

アクセス権 (詳細)					
現在のパス : /shares/Volume1					
削除	ACL設定	名前	オーナー	サイズ	日付
 上位ディレクトリ					
		 home	root	30	2007/07/19 16:12
		 share	root	6	2007/07/19 16:09
		 soumu	root	6	2007/07/19 16:39
		 image1.bmp	root	1162854	2006/05/26 19:27
		 image2.bmp	root	1162854	2006/05/31 16:44

現在のパス	現在表示しているフォルダのパス名です。
削除	削除したい時に  をクリックすると、フォルダとその中に含まれるファイルすべてが削除されます。削除する前に必ずフォルダの中身を確認してください。
ACL 設定	それぞれのフォルダやファイルに対してアクセス権の細かい設定を行う事ができます。ACL 設定を行う場合は、  をクリックし設定します。詳しくは P110 を参照してください。
名前	フォルダ名やファイル名が表示されます。フォルダ名の前には  が、ファイル名の前には  が表示されます。またフォルダ名をクリックすると、そのフォルダの中身を表示します。
オーナー	このフォルダやファイルの所有者が表示されます。
サイズ	フォルダのサイズはフォルダやファイルのサイズが表示されます。
日付	フォルダやファイルを最後に保存した日付が表示されます。
上位ディレクトリ	1つ上の階層の表示をしたい時にクリックします。



注意

MacOS10.5 ではアクセス権の仕様が旧来の OS と異なっています。

N-RAID のファームウェア 1.0P 以降では、MacOS10.5 においても旧来の OS と同様、N-RAID の中に作成されたファイルやフォルダのアクセス権が CreatorOwner、CreatorGroup、Everyone の全てにおいて書込可能権限 (RW 権限) となるように設定されています。この設定により、RW 権限を持つユーザー ID でファイルやフォルダの内容を上書き保存した際に ACL 設定が再び CreatorOwner、CreatorGroup、Everyone の全てにおいて RW 権限となります。(もしくは見た目だけそのようになる場合があります。) 上書き保存の際には、ACL の再設定が必要です。

共有フォルダやファイルを削除する場合

- 1 削除したいフォルダの前にある  をクリックすると削除してもよいかの確認画面が表示されます。



削除する前に必ずフォルダの中身を確認してから削除してください。

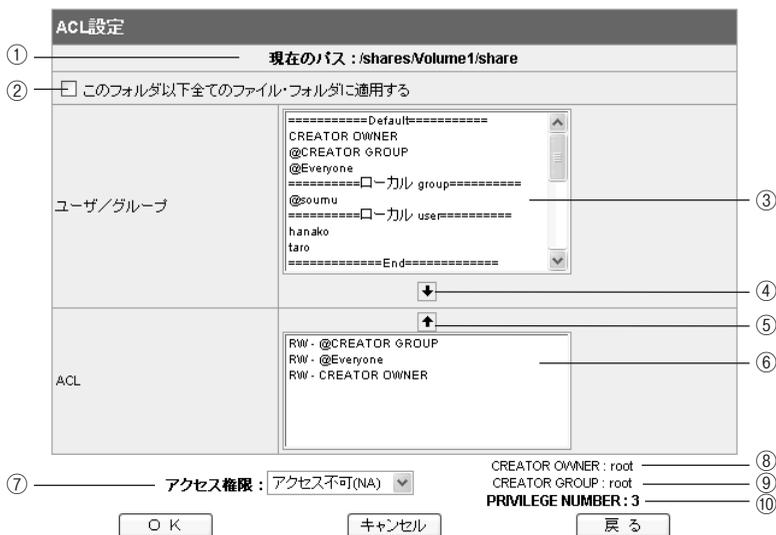


- 2 確認の上、「OK」をクリックします。

ACL 設定

第1階層で作成したフォルダのさらに下のフォルダやファイルに対してアクセス権の設定を行います。

-  をクリックします。ACL 設定の画面が表示されます。P109、P110の内容を参照のうえ設定してください。



①	現在のパス	現在表示しているフォルダやファイルのパス名です。
②	このフォルダ以下 全てのファイル・ フォルダに適用する	ここにチェックをつけると、このフォルダ以下に内包しているすべてのファイルやフォルダに対して、同じアクセス権を設定することができます。
③	ユーザ/グループ	N-RAID に登録されているユーザー又はグループ名のリストが表示されます。 ====Default==== 必ず適応されるアクセス権です。フォルダやファイルを作成すると必ずこの3つのアクセス権が設定されます。 【CREATOR OWNER】…作成者 【@CREATOR GROUP】…作成者の所属グループ 【@Everyone】…すべてのユーザー ==== ローカル group==== N-RAID に登録されているグループ名が表示されます。 ==== ローカル user==== N-RAID に登録されているユーザー名が表示されます。
④		③[ユーザ/グループ]と⑦[アクセス権限]を設定した後、  をクリックすると⑥[ACL]に設定が追加されます。
⑤		⑥[ACL]に設定されているアクセス権限から削除したい設定を選択し、  をクリックすると設定が削除されます。
⑥	ACL	現在のパスに対して、現在設定されているアクセス権限が表示されます。 RW (Read Write) 「読み込み、書き込み可能」、RO (Read Only) 「読み込みのみ」、NA (No Access) 「アクセス不可」を表します。設定は⑦[アクセス権限]の項目で行います。 設定を解除したい場合は、解除したい設定を選択し、  をクリックします。
⑦	アクセス権限	現在のパスに対して、誰がどんなアクセス権限にするかを設定します。 ③[ユーザ/グループ]からアクセス権限を設定したいユーザー又はグループを選択し、⑦[アクセス権限]のプルダウンメニューから、「アクセス不可 (NA)」、「読み込みのみ (RO)」、「読み/書き(RW)」からアクセス権限を選択します。  をクリックすると、[ACL]に設定が追加されます。
⑧	CREATOR OWNER	現在のパス(フォルダやファイル)の所有者を表示しています。
⑨	CREATOR GROUP	現在のパス(フォルダやファイル)の所有者が所属しているグループを表示しています。
⑩	PRIVILEGE NUMBER	現在のパス(フォルダやファイル)に対してアクセス権を設定した数([ACL]で表示されている設定の数)です。

■ ACL 設定を行う場合

- 1 [ユーザー設定] メニューから【フォルダ】を選択し、ACL 設定を行いたい共有フォルダの前にある  をクリックします。
- 2 ③ [ユーザ／グループ] から、アクセス権を設定したいユーザー、又はグループを選択します。
- 3 2 で選択したユーザー、またはグループに対して、⑦ [アクセス権限] から適用したいアクセス権限を選びます。
- 4 ④  をクリックすると、⑥ [ACL] の欄に設定したアクセス権限が追加されます。
- 5 設定が完了したら【OK】をクリックします。

■ 現在設定されているアクセス権限を変更する場合

- 1 ③ [ユーザ／グループ] から、アクセス権限を変更したいユーザー、又はグループを選択します。
- 2 1 で選択したユーザーに対して、⑦ [アクセス権限] から適用したいアクセス権限を選びます。
- 3 ④  をクリックすると、⑥ [ACL] の欄に、選択したユーザーのアクセス権限が変更されます。
- 4 設定が完了したら【OK】をクリックします。

■ 現在設定されているアクセス権限を削除する場合

- 1 ⑥ [ACL] の欄から、アクセス権限を削除したいユーザー、又はグループを選択します。
- 2 ⑤  をクリックすると、⑥ [ACL] の欄から、選択したユーザーのアクセス権限が削除されます。
- 3 設定が完了したら【OK】をクリックします。

クォータ

クォータは、ファイル共有時にクライアントマシンより利用可能なファイル容量を管理します。ボリューム毎もしくはユーザー毎に設定することができます。

1 YFS Controller Pro II を呼び出します。(P52 を参照)

2 【ユーザー設定】メニューの中の【クォータ】を選択します。

3 クォータの選択で、「ボリューム別設定」「ユーザー別設定」のどちらかを選択します。項目の内容は以下を参照のうえ設定してください。

クォータ	「ボリューム別設定」もしくは「ユーザー別設定」を選択します。それぞれの内容は次項の内容を参照してください。
ボリューム名	ボリューム名を表示します。
最大使用可能容量(MB)	ボリュームの最大容量を表示します。
使用可能容量(MB)	ボリューム別もしくはユーザー別に使用可能な容量を入力します。
現在の使用容量(MB)	現在のデータ使用量を表示します。

■ 「ボリューム別設定」を選択した場合

クォータの選択で「ボリューム別設定」のプルダウンメニューから設定したいユーザーを選択します。

下記の表にボリュームの一覧が表示されます。

「使用可能容量 (MB)」の欄に、選択したユーザーがどれだけの容量を使用可能にするかをボリューム毎に設定します。

クォータ			
クォータ	<input checked="" type="radio"/> ボリューム別設定	<input type="radio"/> ユーザー別設定	GUEST Volume1
ボリューム名	最大使用可能容量(MB)	使用可能容量(MB)	現在の使用容量(MB)
Volume1	1420740	1420740	10000

■ 「ユーザー別設定」を選択した場合

クォータの選択で「ユーザー別設定」のプルダウンメニューから設定したいボリュームを選択します。

下記の表に選択したボリュームに登録されているユーザーの一覧が表示されます。設定したいユーザーの「使用可能容量 (MB)」の欄に、ユーザーが利用可能なファイル容量を入力します。

クォータ

クォータ ボリューム別設定 GUEST ユーザー別設定 Volume1

ユーザー名	最大使用可能容量(MB)	使用可能容量(MB)	現在の使用容量(MB)
GUEST	1420740	1420740	10000
hanako	1420740	1420740	0
ogawa	1420740	1420740	0
taro	1420740	1420740	0

登録 / 更新 キャンセル

4 設定が完了したら、【登録 / 更新】をクリックします。

サーバの各種状態を表示します。

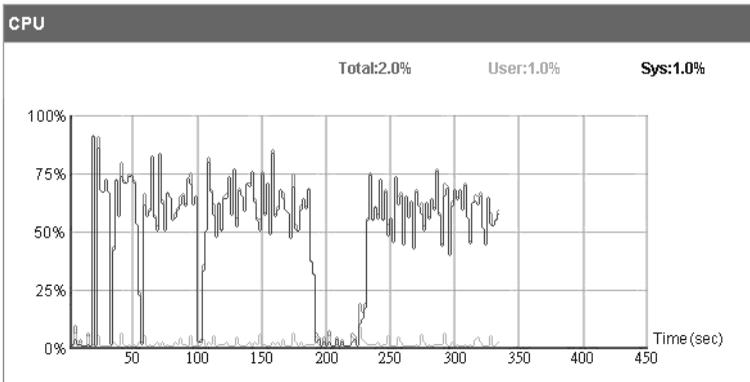
システム情報

本製品の機種種のシリアル番号や、バージョンを表示します。

システム情報	
会社名	Yano Electric
製品名	NRAID
型番	4000T
シリアル番号	000051
ハードウェア	1.2
ファームウェア	1.0F(2008/01/28)

CPU

CPU の使用率をグラフ表示します。



メモリ

サーバに実装されたメモリの情報を表示します。

メモリ	
メモリーサイズ	256 MB
メモリータイプ	DDR

ネットワーク

サーバのネットワーク設定と接続状況を表示します。

ネットワーク	
NIC	Ether0
接続	はい
セットアップ	DHCP/BOOTP
IPアドレス	192.168.1.100
サブネットマスク	255.255.255.0
ゲートウェイ	192.168.1.1
DNSサーバーアドレス	192.168.1.1
MACアドレス	00:06:12:00:20:FE
速度	1000 Mb/s, Full Duplex

ボリューム

ディスクドライブの状況と、設定されたボリュームの状況を表示します。

障害が起きた時やディスクに異常が生じた時には[ステータス]に異常が表示されます。マウスを[ディスク]と[ボリューム]に合わせると、「エントリをダブルクリックし、詳細情報を表示」と表示され、さらに詳しい内容が表示されます。(次ページを参照)

ボリューム					
ディスク					
品番	型番	容量	ステータス		
Disk 1	HDT7250	305245	ボリューム [1]		
Disk 2	HDT7250	305245	ボリューム [1]		
Disk 3	HDT7250	305245	ボリューム [1]		
Disk 4	HDT7250	305245	ボリューム [1]		
ボリューム					
No.	タイプ	容量(MB)	使用量(MB)	ディスク	ステータス
Volume1	RAID 5	905656	5487	1,2,3,4	使用中です。

ダブルクリックすることで、以下のような【ディスク】と【ボリューム】との詳細表示画面が表示されます。

ディスク

現在のディスクの状況が確認できます。

ディスク	
品番	Disk 1
温度	34.5
最高速度	300 MB/s
バッドセクター数	0 (Maximum:512)

戻る

品番	ディスクの番号が表示されます。
温度	ディスクの温度が表示されます。
最高速度	ディスクが対応するデータ転送モードの最高速度が表示されます。
バッドセクター数	バッドセクターの数が表示されます。バッドセクターが表示された場合は、他のディスクにも障害が発生していないか確認してください。バッドセクターが表示された場合は、弊社カスタマサポートまでご連絡ください。

ボリューム

現在のボリュームの状況が確認できます。

ボリューム	
No.	Volume1
タイプ	RAID 5
容量(MB)	905656
使用量(MB)	6409
リビルド速度	高速
ストライプサイズ	64 KB
RAIDディスク	Disk 1, Disk 2, Disk 3, Disk 4 [4/4]
ステータス	使用中です。

戻る

No.	ボリュームのナンバーが表示されます。
タイプ	RAID ボリュームのレベルが表示されます。
容量 (MB)	ボリューム全体の容量が MB で表示されます。
使用量 (MB)	ボリューム内で使用されている容量が MB で表示されます。
リビルド速度	リビルドをおこなう速度が表示されます。
ストライプサイズ	RAID ボリュームのストライプサイズが表示されます。
RAID ディスク	搭載されているディスクのうち、RAID ボリュームに構成されているディスクのナンバーが表示されます。
ステータス	ボリュームの状態が表示されます。

アクティブアクセス

現在のサーバへ接続しているクライアントの状況が確認できます。

アクティブアクセス				
共有フォルダ	ユーザ	ホスト	ログイン時間	プロトコル
share	taro	192.168.1.100	Thu Feb 8 08:43:46 2007	AFP
share	yano	192.168.1.101	Fri Feb 13 15:43:46 2007	SMB

ログ

サーバに記録されたログを確認することができます。

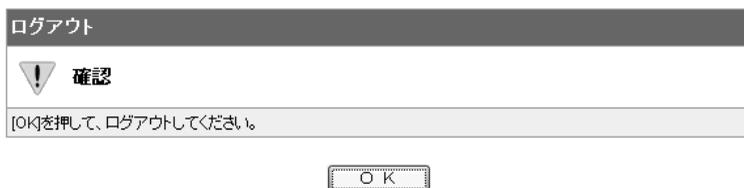
表示されているログをダウンロードする場合は、〈ログをダウンロードする〉をクリックし、ファイルを保存します。

ログ			
<input checked="" type="radio"/> 情報 <input type="radio"/> 警告 <input type="radio"/> エラー <input type="radio"/> ログをダウンロードする <input type="radio"/> ログを消去する			
レベル	日付	時間	メッセージ
Warn	2007/02/07	20:01:13	Disk 1 was added!
Info	2007/02/07	20:01:20	Add disk 1 OK!
Info	2007/02/07	20:01:21	Device: sda, has SMART capability
Warn	2007/02/07	20:01:25	Disk 2 was added!
Info	2007/02/07	20:01:32	Add disk 2 OK!
Info	2007/02/07	20:01:33	Device: sdb, has SMART capability
Warn	2007/02/07	20:01:38	Disk 3 was added!
Info	2007/02/07	20:01:44	Add disk 3 OK!
Info	2007/02/07	20:01:46	Device: sdc, has SMART capability
Warn	2007/02/07	20:01:51	Disk 4 was added!
Info	2007/02/07	20:01:57	Add disk 4 OK!
Info	2007/02/07	20:01:59	Device: sdd, has SMART capability
Info	2007/02/07	20:16:07	Display language has been successfully set to Japanese
Info	2007/02/07	20:17:22	System time updated successfully.

7 ログアウト

設定画面をログアウトし、YFS Controller Pro II を終了します。

- 1** YFS Controller Pro II を呼び出します。(P52 を参照)
- 2** 【ログアウト】 を選択します。
- 3** 以下の画面が表示されます。
【OK】 をクリックすると、ログアウトし Web ブラウザの画面を閉じます。



サーバのシャットダウンまたは再起動を行います。

1 YFS Controller Pro II を呼び出します。(P52 を参照)

2 [シャットダウン] を選択します。

以下のような確認のメッセージが表示されます。

シャットダウン				
 確認				
N-RAIDはデータの安全のためにfsck(ファイルシステムチェック)を自動的に実施し検査と修復を行います。(1)前回のfsck実施から起動を30回実行した場合か、(2)前回のfsck実施から100日経過した場合かの「fsck実施条件(起動回数/日時)」が満たされた状態の「次回」起動時に自動的に実施されます。fsckには数十分から数時間を要します。				
ボリューム名	fsck実施条件 (起動回数)	現在の起動回 数	前回のfsck実施日時	fsck実施条件(日時)
Volume1	30	1	Fri Jun 27 11:14:16 2008	Sun Oct 5 11:14:16 2008
[終了]を選択してサーバをシャットダウン。または[再起動]を選択してリスタートしてください。				

終了

再起動



注意

N-RAID はデータの安全のために fsck（ファイルシステムチェック）を自動的に実施し検査と修復を行います。

(1) 前回 fsck 実施から起動を 30 回実行した場合か、(2) 前回の fsck 実施から 100 日経過した場合かの「fsck 実施条件（起動回数／日時）」が満たされた状態の「次回」起動時に自動的に実施されます。fsck には数十分から数時間を要します。

上記の (1)、(2) どちらかの条件に達した場合、fsck が自動的に実施されます。この期間までの間は通常終了、および再起動を行います。

サーバをシャットダウンする場合は【終了】を、リスタートする場合は、【再起動】をクリックします。

3 「シャットダウン（終了）します。よろしいですか?」というダイアログが表示されます。よろしければ【OK】をクリックします。

シャットダウン	
 確認	
シャットダウン(終了)します。よろしいですか?	
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> OK キャンセル </div>	



注意

【シャットダウン】→【終了】から【OK】を選択しても YFS Controller Pro II の表示は「シャットダウン(終了)しています。しばらくお待ちください。」のままになります。終了は、N-RAID 本体の液晶パネルで終了したかどうか確認してください。

Chapter

4

日常の運用と障害の発生

ハードディスクドライブは長期間お使いになると劣化により、故障が発生することがあります。Chapter 4では、障害時のアラートと復旧の方法などを説明しています。本製品の使用を開始したら次ページの「1. 日常の運用について」をお読みになることをお勧めします。

日常および障害時のご注意

日常の運用および障害が発生した場合の本製品の取り扱いについて、以下の点にご注意ください。

- 本製品の電源が入った正常な状態で「ドライブホルダーを取り出す」などの操作をしないでください。正常な状態でもこれらの操作をすると、オートリビルド機能により再構築が開始されたり、最悪の場合はすべてのデータが失われることがあります。
- ドライブホルダーは当社指定のもの以外は絶対に使用しないでください。また、ドライブホルダー内のドライブをお客様ご自身で交換しないでください。本製品が正常に動作しなくなります。なお、お客様ご自身でドライブを交換された場合は保証の対象外になります。
- 正常時および障害時のいずれの場合でも、電源を切った状態でドライブホルダーを交換しないでください。再構築が開始され、ドライブの不一致を検出できない場合はデータの内容が保証されないばかりか、正常なドライブホルダーのデータが失われる恐れがあります。

障害の発生に備えて

ハードディスクドライブは消耗品です。長期間使用していると、いずれは劣化によるエラーや故障が発生します。その時に備えて準備をしておきましょう。

- 障害の発生に備え、交換用ドライブホルダーを準備しておき、障害時に迅速に対応するために、あらかじめ次ページ以降の内容を一度お読みください。
- 読み書き時にエラーが多発するようになれば、ドライブの劣化が進行していると考えられます。障害が発生するかも知れないと考え、障害時の準備を整えておきましょう。
- 1台のドライブに障害が発生した場合は、同じ消耗度である他のドライブにも障害が発生するかも知れないと考え、障害時の準備を整えておきましょう。

ここでは本製品に障害が発生した場合の状態とアラートの解除方法について説明しています。以下の手順で対処してください。

■ 手順

1. アラートを解除する P122 へ
2. ドライブホルダーを交換する P123 へ
(交換用ドライブホルダーがない場合は 3 へ)
3. ドライブが故障している場合は修理する
..... 弊社カスタマサポートまでご連絡ください。(P134 参照)



アラートの解除を行い、障害の発生したドライブホルダーを外した状態でも動作は可能ですが、製品本来が持つデータの安全性を保つことができません。障害が発生した場合は、できるだけ速やかにドライブホルダーの交換を行ってください。

障害が発生した時の状態

本製品のドライブホルダー内のドライブに障害が発生すると、ブザーとランプ表示によって障害が発生したことを知らせます。



一旦、障害が発生したドライブホルダーは再度入れないでください。障害が発生したディスクを入れると正常に復旧ができなくなるだけでなく、データを失う恐れがあります。

●ブザーによる通知

障害が発生すると、「ピーピー」と断続的にブザーが鳴ります。ブザーを止めるには、YFS Controller Pro II でアラートを解除するか、障害が発生したドライブホルダーを交換用ドライブホルダーに入れ替えます。

ドライブホルダーを入れ替え、リビルドが開始されると、ブザーが止まります。

●ランプによる表示

障害の発生したドライブホルダーの「ハードディスク電源ランプ」が赤色に点灯します。

●ディスクの障害状況の確認

ディスクの障害状況については、【システム情報】→【ボリューム】の画面からダブルクリックすることで、ディスクとボリュームのそれぞれの詳細情報を確認することができます。詳しくは P115 「・ディスク」「・ボリューム」を参照してください。

アラートの解除方法

障害が発生すると、「ピーピー」と断続的にブザーが鳴ります。ブザーを止めるには、YFS Controller Pro II でアラートを解除するか、障害が発生したドライブホルダーを交換用ドライブホルダーに入れ替えます。

ドライブホルダーを入れ替え、リビルドが開始されるとブザーが止まります。

1 【システム設定】メニューの中の【障害通知】を選択します。

2 障害がある場合、赤字もしくは黄字で表示されます。

障害が起こっているディスクとそのボリュームのスピーカーアイコンをクリックし、「×」マークを表示させます。

障害通知			
ステータス	<input checked="" type="radio"/> ブザー <input type="radio"/> メール		
ブザー	<input checked="" type="radio"/> 設定する <input type="radio"/> 設定しない		
温度	ファン	ディスク	ボリューム
CPU	System ファン	Disk1 Disk2 Disk3 Disk4	Volume1
<input type="button" value="登録 / 更新"/>		<input type="button" value="キャンセル"/>	



注意

アラートを解除したあとも、本製品の電源は切らないでください。

3 「登録 / 更新」ボタンをクリックします。これでアラートが解除できます。



注意

アラートの解除を行い、障害の発生したドライブホルダーを外した状態でも動作は可能ですが、製品本来が持つデータの安全性を保つことができません。障害が発生した場合は、できるだけ速やかにドライブホルダーの交換を行ってください。

アラートの解除ができれば、故障したドライブホルダーを交換用ドライブホルダーに交換します。次ページの「3. ドライブホルダーの交換と復旧作業」へ進んでください。お手元に交換用ドライブホルダーがない場合は、弊社カスタマサポートまでご連絡ください。(P134 参照)

3

ドライブホルダーの交換と復旧作業

故障したドライブホルダーを交換用ドライブホルダーと入れ替えます。復旧作業は本製品の電源を入れたままの状態で行います。本作業前には必ずデータを確認し、可能な限りバックアップを行うことをお勧めします。



本製品の使用中に、万一ディスクに障害が発生した場合は、ドライブホルダーの交換（ユーザーズマニュアル「障害が発生した時は」を参照）を行ってください。なお、ドライブホルダー交換後の復旧動作（リビルド）には、2時間から8時間程度を要します。復旧作業中の本製品に対し、読み出しや書き込みを行うことは可能ですが、正常時よりも読み書きに時間がかかります。また、復旧作業中に読み出しや書き込みを行うことにより、復旧が完了するまでの時間がさらに長くなりますのでご注意ください。



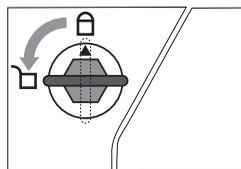
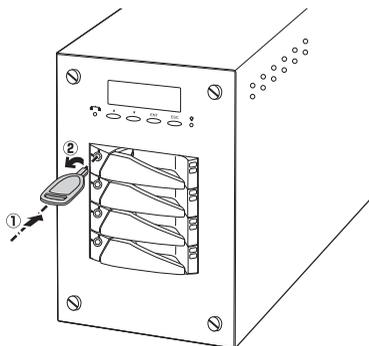
電源が入っていない状態でドライブホルダーの交換をすると、エラーが発生します。ドライブホルダーの交換は必ず電源が入った状態で行ってください。



一旦、障害が発生したドライブホルダーは再度入れないでください。障害が発生したディスクを入れると正常に復旧ができなくなるだけでなく、データを失う恐れがあります。

1

電源が入った状態で、付属のキーを6角形のカギ穴の形に合わせて差し込みます。▲のマークを□に合わせ、ドライブホルダーのロックを解除します。

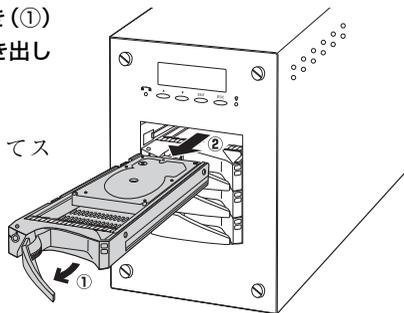


- ・ キーを差し込み、▲のマークを□に合わせます。

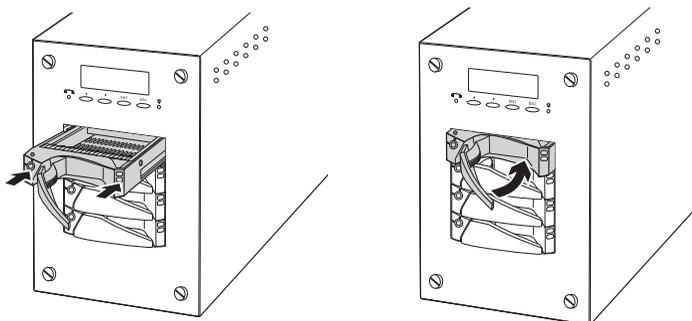
2

ドライブホルダーの取手を手前に引き①、取手を持ってドライブホルダーを引き出します②。

- ・ ドライブホルダーの取手を持ってスロットから引き出します。



- 3** 交換用ドライブホルダーをスロットに差し込みます。均等に力を入れて、奥に突き当たるまで押し込んだあと、取手を元の位置に戻します。



- 4** 付属のキーを六角形のカギ穴の形に合わせて差し込みます。
▲のマークを □ に合わせ、ドライブホルダーをロックします。

- 5** オートリビルド機能により、自動的に復旧作業が始まります。復旧中は、再構築の進捗が液晶表示パネルに表示されます。再構築の進捗表示から通常時の状態になれば、再構築は完了です。



一旦、障害が発生したドライブホルダーは再度入れないでください。障害が発生したディスクを入れると正常に復旧ができなくなるだけでなく、データを失う恐れがあります。



復旧作業中の本製品に対し、読み出しや書き込みを行うことは可能ですが、正常時よりも読み書きに時間がかかります。そのため、動画やオーディオファイルは正常に記録/再生ができないことがあります。また、復旧作業中に読み出しや書き込みを行うことにより、復旧が完了するまでの時間がさらに長くなりますのでご注意ください。



復旧作業を中断したい場合

復旧作業を一時的に中断したい場合は、復旧作業中に本製品の電源を切ることで中断することができます。再び電源を入れると、中断した時点から復旧作業を再開します。

また、復旧作業中に本製品の電源を誤って切ってしまった場合でも、そのまま本製品の電源を入れることで復旧作業を続けることができます。

ただし、電源を切った状態で、ドライブホルダーを交換するなどの操作は絶対にしないでください。正常に復旧できないだけでなく、正常なドライブホルダーのデータも失われます。

- 6** 再構築が終了したら、ドライブホルダーの入れ替えは完了です。



ドライブが故障している場合は、修理する必要があります。弊社カスタマサポートまでご連絡ください。(P134 参照)

スペアディスクの再設定

ボリューム設定でスペアディスクを1台以上設定した場合、障害が発生してもスペアディスクが自動的に障害が発生したディスクの代わりとなり、復旧を行います。障害が発生したドライブホルダーは、できるだけ速やかに交換を行ってください。交換したドライブホルダーは以下の手順で、再度スペアドライブとして設定してください。

1 【ストレージ設定】メニューの中の【ボリューム】を選択します。

2 以下のような画面が表示されます。

ボリュームの行をクリックして選択し、【変更】をクリックします。



3 以下のような画面が表示されます。スペアディスクに設定したいディスクのチェックボックスにチェックを入れ【登録 / 更新】ボタンをクリックします。



Chapter

5

付 録

Chapter 5 では RAID システムに関する基本的な説明、本製品が正常に動作しない時のトラブルシューティングとカスタマサポートなどをご案内しています。必要に応じてお読みください。

RAID とは

ハードディスクは、コンピュータの周辺機器において重要な役割を持ちながら、大きな問題を抱えたデバイスです。一つは他のデバイスに比べて故障が多いこと、もう一つはバスやメモリ、CPU などの処理速度に比べ、ハードディスクの読み書きの速度が遅いということです。

これらの問題を安価なハードディスクを使いながら解決する技術が RAID (レイド: Redundant Array of Inexpensive Disk drives) です。

RAID はハードディスクなどの記憶装置を複数用意し、アクセスを分散させることにより、高速、大容量で信頼性の高いディスク装置を実現できます。ただし、RAID はハードディスクの故障を減らす手段ではなく、故障によるデータの消失やシステムの中断を最小限に食い止める手段であり、ハードディスクによるトラブルがなくなるわけではありません。

RAID のレベル

RAID には、RAID 0 ~ RAID 5 まで 6 種類の「RAID レベル」と呼ばれる種類があります。

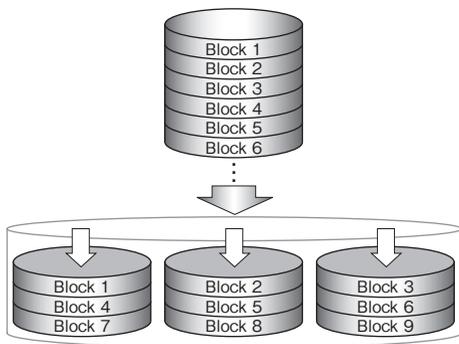
ここでは、N-RAID シリーズが採用している「RAID 0」「RAID 1」「RAID 3」「RAID 5」と RAID 構成をとらない場合の「シングルディスク」について説明します。

■シングルディスク

RAID 構成をとらず、ハードディスクを 1 台ずつ使用します。ハードディスクが故障するとデータの読み書きができなくなります。データ保存に使用できるディスク容量はそのディスク 1 台分になります。

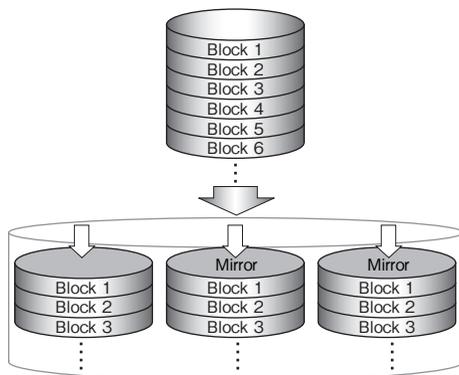
■ RAID 0

RAID 0は「ストライピング」とも呼ばれ、最小構成単位が2台のシステムで、複数のハードディスクに、データを均等に分散して保存します。分散したデータを同時並行的に読み書きすることで、データ転送速度が高速になりますが、ディスクが1台でも故障するとデータの読み書きができなくなります。



■ RAID 1

RAID 1は「ミラーリング」とも呼ばれ、2台以上1組でハードディスクを利用する機能です。2台以上のハードディスクそれぞれに同じデータを同時に保存します。もし、このうち1台のハードディスクが故障した場合でも、複数のハードディスクに全く同じデータが保存されていますので、そちらのハードディスクを使って読み書きを続けることができます。データ保存に使用できるディスク容量はRAIDを構成するディスク1台分になりますが、大切なデータの保存に最適な手段のひとつです。



■ RAID 3

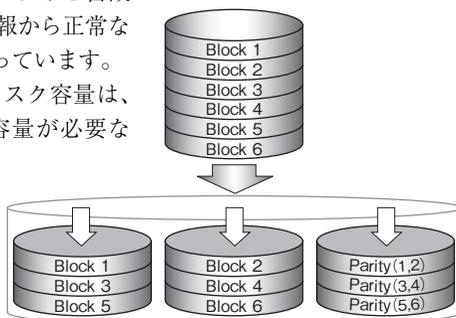
RAID 3は最小構成単位が3台のシステムで、複数のハードディスクにデータを分散して保存します。この時、「パリティ情報」と呼ばれる内容が、RAID 3を構成するハードディスクのうちパリティ専用の1台に記録されます。

パリティ情報は、ハードディスクの障害により、データの一部分が消失してもデータを復元できるようにするための情報が格納されています。

これにより、もしハードディスクが1台故障したとしても、パリティ情報から正常なデータに復元できるようになっています。

データ保存に使用できるディスク容量は、パリティを記録するための容量が必要なため、RAIDを構成するハードディスクの総容量から1台分引かれます。

全体的なパフォーマンスはRAID 5に劣ります。



■ RAID 5

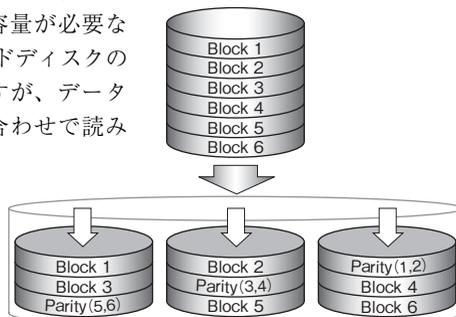
RAID 5は最小構成単位が3台のシステムで、複数のハードディスクにデータを分散して保存します。この時、RAID 5を構成するそれぞれのハードディスクにはデータ以外に、「パリティ情報」と呼ばれる内容も記録されます。

パリティ情報は、ハードディスクの障害により、データの一部分が消失してもデータを復元できるようにするための情報が格納されています。

これにより、もしハードディスクが1台故障したとしても、パリティ情報から正常なデータに復元できるようになっています。

データ保存に使用できるディスク容量は、パリティを記録するための容量が必要なため、RAIDを構成するハードディスクの総容量から1台分引かれますが、データの分散とキャッシュの組み合わせで読み書きを高速化できます。

全体的にパフォーマンスにも優れており、システムを停止させることのできないサーバ用ストレージに最適です。



2 こんな時には

正常に動作しない場合などトラブルが発生した時は、下記のことを確認してください。

❓ 本製品の電源を入れても、サーバが表示されない。

サーバの起動が完了していることを確認してください。

いつもより時間がかかる場合は、ファイルシステムのチェックをしている可能性がありますので5分～30分程度待ってください。それでも起動しない場合は、本製品が故障した可能性があります。弊社カスタマサポートまでご連絡ください。

❓ たびたび温度異常の警告がでる

本製品の設置場所によりホコリや温度などの影響を受けている場合があります。

【システム情報】 → 【ログ】 でエラーの表示を確認してください。

本体の正しい設置の仕方についてはP14の「ご使用になる時の注意事項」の「設置場所について」の項を参照してください。

また、本製品の右側にある通気口にホコリが溜まっている場合はホコリの除去を行ってください。それでもエラーが解除されない場合は、弊社カスタマサポートまでご連絡ください。

❓ 液晶表示パネルに「System FAN fails!」と表示されて起動できない

本製品のシステムファンが正常に動作していない可能性があります。本製品の背面にあるシステムファンが正常に動作しているか確認してください。システムファンが正常に動作していない場合はシステムファンが故障している可能性があります。電源が切れていない場合、本体背面の電源スイッチを押して電源を切り、弊社カスタマサポートまでご連絡ください。

❓ 液晶表示パネルやログに今まで見たことのない表示が出ている

本製品に何らかの障害が起きている可能性があります。
弊社カスタマサポートまでご連絡ください。

? 電源が入らなくなった

電源ケーブルが正しく接続されているかどうか確認してください。また、安定した電源供給がおこなわれるように、できるだけコンセントから直接電源ケーブルを接続するようにしてください。本製品に対応したUPSの使用を推奨いたします。

? 急にマウントされなくなった

ケーブルが正しく接続されているかどうか確認してください。また、サーバに障害が発生していないかどうか確認してください。詳しくはP121「2. 障害が発生した時は」を参照してください。

? ファイル転送が遅くなった

サーバが正しく接続されているかどうか確認してください。また、サーバに障害が発生していないかどうか確認してください。詳しくはP121「2. 障害が発生した時は」を参照してください。

? ドライブホルダーのランプが赤色に点灯しエラーが発生した

ハードディスクに異常が起これると、ハードディスク電源ランプが赤色に点灯します。RAID1～5を構成しているドライブホルダーであれば、正常なドライブホルダーと交換すれば復旧させることができます。(P123 参照)
また、ボリューム設定の際にスペアディスクを設定しておく、異常が発生した時に自動的にスペアディスクを割り当て、復旧が行われます。
異常が起きたドライブホルダーが、シングルディスクやRAID0に設定されている場合には、データを復旧させることはできません。

? 本体からいつもと違う音がする

本製品の内部やディスクドライブの故障が考えられます。
弊社カスタマサポートまでご連絡ください。

? マイネットワークに表示されない (Windows)

Windows 共有のセキュリティーレベルをユーザで使用している場合、サーバまたはコンピュータが起動した直後は、コンピュータの名前が参照できないことがあります。Windows ネットワークでは、ワークグループ内にブラウザが存在し、コンピュータの一覧（ブラウザリスト）を受け渡ししています。ブラウザから接続したコンピュータの名前を取得できるまでに、10 数分必要な場合があります。この問題を回避するためにはサーバを起動したままにすることをお勧めします。また、Windows NT / 2000 / XP から接続する場合には、【スタート】メニューから【ファイル名を指定して実行 ...】で [¥¥192.168.0.250] のように指定することですぐに接続できます。

? IP アドレスを忘れてしまった (Macintosh/Windows)

IP アドレスは、本製品の液晶パネルで確認することができます。(P24 参照)
また、本製品の液晶パネルで IP アドレスを変更することができます。

? パスワードを忘れてしまった (Macintosh/Windows)

設定したパスワードを忘れてしまって、YFS Controller Pro II にログインできなくなった場合、パスワードを初期化するために製品を弊社までお送り頂く必要があります。その場合には、弊社カスタマサポートまでご連絡ください。

パスワードはくれぐれも忘れないように注意してください。

3 サポートとサービスのご案内

カスタマサポートと弊社 Web サイトのご案内

もし、トラブルが解消しなかった場合は、製品を購入された販売店、もしくは弊社までご相談ください。

弊社では、「カスタマサポート」の専用回線を設置しております。お問い合わせは、下記あてにお願いします。

また、弊社 Web サイトでは、製品情報、製品に関するトラブルシューティング、ドライバソフトおよびソフトウェアのアップデートサービスなど、最新のサポート情報を公開しています。お問い合わせの前にご確認ください。

当社では、ファイルサーバが故障した場合のデータ復旧サービスは行っておりません。データのバックアップは複数の方法でこまめに行うようにしてください。

カスタマサポート専用回線

Tel. (078) 993-0010 Fax. (078) 997-6408
月曜日から金曜日まで（祝祭日、特定休業日は除く）
午前 9：30～12：00 午後 1：00～5：00

※カスタマサポートの専用回線が混み合っている場合は、しばらくたってからおかけ直しいただくか、下記の電話番号あてにご連絡ください。

Web : www.yano-el.co.jp

E-mail : info@yano-el.co.jp

ヤノ電器株式会社

〒651-2242 神戸市西区井吹台東町 1-1 Tel. (078) 993-0007

10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T 対応 NAS RAID 装置 N-RAID 4000T ユーザーズマニュアル

2007年2月22日 第1版発行

2009年7月11日 第6版発行

発行所

ヤノ電器株式会社
神戸市西区井吹台東町 1-1 (〒 651-2242)

落丁乱丁本はお取り替えます。

本マニュアルに記載された製品の仕様、本マニュアルの記載内容等は予告なく変更することがあります。

Apple, Mac, Macintosh, Power Macintosh は米国アップルコンピュータ社の登録商標です。

Power Mac, iMac は米国アップルコンピュータ社の商標です。

Microsoft, Windows は米国 Microsoft 社の登録商標です。

その他、本マニュアルに記載された会社名および製品名は、各社の商標および登録商標です。



ヤノ電器株式会社

www.yano-el.co.jp